

一
郎
つ
れ
づ
れ

堀
内
一
郎



知床旅情

5 1-3 15-1 16 15-1

3 4 3 | 2 - 5 | 3 2 3 | 1 - 5 | 1 - 3 |

5-1 | 161 | 5-1 | 343 | 2-5 |

$$5-2 \mid 1-\bullet \parallel 2 \ 2 \ 2 \mid 2 \ 1 \ 2 \mid 3-5 \mid$$
$$5 - \cdot | 666 | 64 \cdot \underline{6} | i - \cdot \widehat{1}^* - 0 | \hat{2} i 6 |$$

5-1 | 3-6 | 5-1 | 3 4 3 | 2 5 2 |

$$1 \rightarrow \cdot \hat{1} \mid - 5 \Rightarrow \hat{1} \mid - \cdot \hat{1} \mid - 0 \parallel \quad \text{Coda} \quad 1 \rightarrow \cdot \hat{1} \mid \parallel$$

童神 (天子子孫也)

b

C. $\overset{\cdot}{3} \overset{\cdot}{6} \overset{\cdot}{1} \overset{\cdot}{7} \overset{\cdot}{5} | \overset{\cdot}{6} \overset{\cdot}{3} \overset{\cdot}{6} \overset{\cdot}{5} \overset{\cdot}{3} \overset{\cdot}{5} | \overset{\cdot}{2} \overset{\cdot}{2} \overset{\cdot}{3} \overset{\cdot}{2} \overset{\cdot}{2} \overset{\cdot}{3} |$

5-5-6 | 1- - - || 1 2 3 5 | 6 1 5- |

6 11 53 | 3 21 2-10 112 35 | 6 15 - |
う まい くん め し けー に う まり た る あり け

6 11 53 | 3 21 - || 33 . 6 3 - | 33 . 5 3 - |
わがはむい くらゐい いさ 2 - 5 いさ 2 - 5

3.3 6 3333 | 23212 - || 1 ii 7 5 |
イロミ - かなし うみましくわ ちんをさーや

6 3 5 3 5 | 0 2 2 3 2 2 3 | 2 2 1 5 - |
ハ 2- ハ 3- ハ 4- ハ 5- ハ 6- ハ 7- ハ 8- ハ 9- ハ 10-

1 1¹ 75 | 63535 | 0.2 23 23 5-6 |
 ゆう いり 3-4 6 3-4 5 0.2 23 23 5-6

$$\frac{1}{\begin{vmatrix} 1 & -1 \\ 3 & -2 \end{vmatrix}} = \frac{1}{-1} = -1$$
$$1 - \frac{0.512}{1} \left(\overset{1}{3} \overset{1}{6} \overset{1}{1} \overset{1}{7} \overset{1}{5} \mid \overset{1}{6} \overset{1}{3} \overset{1}{6} \overset{1}{5} \overset{1}{3} \overset{1}{5} \mid \overset{1}{2} \overset{1}{2} \overset{1}{3} \overset{1}{2} \overset{1}{2} \overset{1}{3} \right)$$

一郎つれづれ

堀内一郎

思いにまかせぬのが人生。
思い通りに出来ぬのが俳句。
だから人生があるように。
だから俳句があるように。
夢があり、旅がある。

もくじ

一郎つれづれ

句集 堀内一郎集（八幡船社刊復刻）

思い出すままに

佐藤喜孝





2011年11月5日 カフェにて

無人駅無人交番寒明ける

春一番自転車起こすこともなし

猫やなぎ見てふるさとへ帰ることに

むすめより禁酒進言ひなあられ

信仰はひとつの遊び鳥雲に



ほどほどに酒も縁や春一忌

得意先である新宿末広亭との縁は、創始者の席亭北村銀太郎氏からで現在は四代目席亭北村幾夫氏と、長いお付き合いになる。

お邪魔するのは一番太鼓が鳴る十一時半頃か夕方五時の入れ替え時を目途にしている。今年の正月は久し振りに「まねき猫」さんの物真似に出会えた。ピンクの和服もお似合いで、ふくよかな表情が客席を和ませる。私は畳席の脇で拝聴する。種々の鳴声の合間に発声の基本から指導もなさる。例えばO音からA音へ徐々に声を上げてゆく呼吸法など健康にも十分適っている様である。お開きに申歳の猿声も威勢よくお客様の一家繁栄を祈念して、猫の盛り、ならぬ、猫の恋、の披露も目出度く賑やかに。

2004/2/21 先負

身動がず病牀五尺かたつむり
満身創痍あぢさゐの色変はる
傷兵も見しこの病院の青筑波
裸運ばれ俎板の鯉になる日
六月の横たへし身の白さかな
病院から最後の旅へほととぎす



手賀沼やずきんずきんと蘆の角

四月は各所で多くの桜を見ることができた。福島矢吹では私の植えた「そめいよしの」も十数年経って他に負けぬ花をつけていた。帰路に立寄った白河南湖の桜も満開。そのあと「かまつか」吟行では地元高橋秋月氏の世話で安孫子文人旧跡を巡り、手賀沼の桜並木を「水の館」まで歩いた。

布佐の斉藤嘉久氏を思い今は亡き渡辺潔・渡辺延子氏夫妻を偲ぶ。

萱句会は町会行事と重複不義理してしまっていたが、町会では御殿場にある秩父宮記念公園を訪ねた。ここも牡丹桜の花吹雪。昭和天皇から贈られたと言う。登山姿の銅像の向うに雪富士がくっきりと聳えていた。

2004/4/24 友引

石の上にも三年と言ふ桜もち
風と来て妻と親しき山さくら
一面に落花白紙を踏む畏れ
暗夜行路旧居をめぐる桜しべ
君は見たかと白樺文学館の春



石橋を叩いて渡る桜かな

NHK 衛星第2で「送ってみようケータイ俳句。春色満載・写真俳句や情熱の恋文俳句続々★生放送で決まる大賞作」が放映された。九十過ぎと言われる女優、原ひさ子氏の出題によりケータイ句会が始まった。

ねじめ正一氏（俳号エジソン）は沖縄へ飛んで女学生に句会の指導をなさる。金子兜太氏はスタジオで若手四、五人と選句選評をしていた。兼題「春の色」席題「恋」写真題と即興題は「ケータイ」ケータイを通して俳句をアピールした。しかし前途遼遠、ベストワンは、

春色と呼ばれるようにがんばるね

2004/3/27 友引

弱気なだめてナースしみみに夜の秋
点滴嫌や葉もいやと言うふ愁思
寡婦三人稲妻の尾に触れ易く
痛きかと注射一氣に稲光
向日葵二輪光背となり救はれし
しばらくは寝て柵へ雲の峰
犬柘植の実に燦々と秋の風



病院を一步出たしと父の日や

『萱』品川吟行の後、風邪熱かと思ひ掛かりつけの米谷医院で風邪薬をもらったが、翌朝先生から電話で血液検査の結果、急性肝炎の疑いがあると言われた。早速紹介状を持ってお馴染みの国立国際医療センターへ、呼吸器科で診察即日入院と決まる。

それからが大変、上部内視鏡を二度、下部内視鏡を一回、MR、肺活量エコー等々。最後に血管造影で終了、平静に戻る。一旦退院7月1日に入院。7月6日七夕の前日に手術を受けることになった。

約十時間かかるという。運を天にまかせよう。

梅雨の晴れ間に大隈講堂時計塔のずうっと奥に薄っすらと筑波山が見える日がある。佐原の思い出など、なりよりの救いである。

2004/6/18 大安

地酒の名良寛と言ふアマリリス
紫陽花や塔婆の丈の不揃ひに
水無月の底ひにあをき雲浮かぶ
蟻の列月の砂漠をさまよへり
裏筆に朱を点じたる大き蓮
上野へ蓮代々木へ菖蒲六月盡
苦勞かけしと梔子の花に言ふ



萬次郎の裸婦つつじ燃ゆ蒲公英もゆ

四月の末に、ウィーンで見た「45歳以下の日本人建築家の45人展」が北浦和の埼玉県立近代美術館で開催された。会場は公園の中にありウィーンより詳細でスペースも広く良い雰囲気であった。現代建築の先鋒と言うべきものであろうが私には夢の世界である。息子、堀内信男の作品も飾ってあり難しいことを言っている。奴も愈々遠い存在になってしまった。一階で内外の名画を鑑賞帰りはアメ屋横丁の雑踏を往復、妻とラーメンを食べて帰る。

2004/5/16 赤口

三月病み枯あぢさゐは紙の音
あたたかく冷たき世なり猫じゃらし
命みぢかし刹那まできて秋の水
乳首の上の黒子や秋暑し
秋時雨晴れてしまえばなつかしき
秋時雨野の声として聞き澄す
銀杏を拾ふ一病息災に



母恋ひのとげ抜き地藏秋の声

病院の昼食にうどんが出た。伸びて不味かった。

うどんと言えば足利行道山の「山のうどん屋」、手打ちの美味しかったこと。吉見百穴のうどんも忘れられない。

夏季鍛錬会で伊香保へ行ったとき水沢観音で昼食が水沢うどんだった。ボルガなど句会の後、高田きみえ様推奨の新宿西口のうどんも中々絶品だった。確か三国一と言うお店である。

ゆうゆうの里を一行で訪ねたとき、きみえ様のご主人から昔の篠原梵の話聞いた。篠原梵が女の紐であった話である。彼の高潔の反面人間味を感じ嬉しい。

うどん、で昔を思い出す。

春驟雨母のうしろの笊にうどん

宮津昭彦

2004/8/19 赤口

月下美人あるじ只今入院中
秋あかね終戦の日も近ければ
機関車の脇のコスモス柔らかし
コスモスのところを移すときゆるる
葡萄作りはひとり涙もろきとよ
ふところに風あつまりし天の川



豊島園に花火が揚る北病棟

見舞いの方には手元の葡萄の葉書を返事になっている。いつも立秋の頃、田舎から葡萄を送ってくる。

本家の立子氏（従姉）分家の武男氏（従弟）で、今年は武男氏から巨峰（種無し）を送ってきた。病室に一房小さな笊に入れて食卓台の上にのせた。そんな訳で二十数年拙いが葡萄を礼状の替りに出してきた。

主治医の寺嶋先生から術後の説明をうけた。胆管は癌であった。退院したら店を直したいとか、句集を出したいとか、南画を書こうなどと欲は深い。

癌に負けては居られない。

2004/8/7 先負

十二月八日忘れてしまひけり
雪だるま何処まで行かば父母に逢はむ
桂信子と渡りし神田川も冬
信子から注いで貰ひしビールかな
信号は人間を堰き去年今年
初夢の前にも一度手を洗ふ



地に足の着かぬもよけれ阿波踊

九月二十五日、清水哲男氏のホームページ「増殖する歳時記」に瀧春一作品が登場した。

をさな子はさびしさ知らね椎拾ふ 春一

清水氏は高浜虚子作品と比して

膝ついて椎の実拾ふ子守かな 虚子

「虚子のような直球は投げてはいない。かなりの変化球だ」と言い、春一を「センチメンタリズムを詠ませるとこの作者はいつも格別な才気を発揮した」とある。

この日私は偶然にも午後業界仲間である大島修三氏の令室大島清子氏の葬儀に瀧先生宅と同番地の環八沿い砧二丁目の東京メモリードホールに参列していた。

2004/10/11 大安

夜長妻哀れ私を介護する
枯園が似合ふ私の影法師
美人から秋思の橋を渡りけり
石に貌あり秋風の尾に坐る
連れ立ちて女芭蕉や石榴裂け
句集なき達者幾たり白椿



浅蜷い蜷い昭和は遠し秋の暮

九月五日退院の日早朝、外来入口の管理人の脇の書架に句集があるので手に取ると、昔暖流同人、山口孝枝氏の句集『思ひ草』だった。私は午後この句集と一緒に退院した。

九月八日に新宿区俳句連盟へ。九日に東一句会へ久し振りに俳句を堪能することができた。

閑ただお様のハガキを紹介しよう。

「東一、の貧乏時代に知り合い、俳句で知り合い、又『暖流』で一緒になり不思議な縁ですね。東一俳句もどうやら続いていますのは皆様のお陰です。あまり俳句はうまくありませんが俳句のおかげで楽しい毎日を送っています」と。さて昨日の「東一、の作は絶品と思う。

指入れて土の湿りや蟬の穴 閑ただお

2004/9/20 友引

月夜のやうな後樂園の梅ひらく
白梅にうぐひす色の小鳥ある
甘酒をふたつ買ひきし冬さくら
ビルの風かたまってくる鴨の陣
風ときて亜浪の梅の白さかな
水底に札束のある風邪心地
わが家より他の沈丁たくましく



鶴折ってせめて明るく冬籠

退院後、句会吟行には近間は極力参加するつもりでいるが、如何せん気が沸いて来ない。徐々に萎んでいくようだ。先行き不安のせいであろう。でも歩くより胸の振動が少なければと臍 皆の反対を押し切ってバイクに恐る恐る乗ってみた。二度三度試みたが、何れ四谷辺りまで若葉の鯛焼でも買いに行ければナーと思っている。

俳句も家に籠っていては出来ない。表へ出て皆んなに会って作るしかないようだ。

11月23日勤労感謝の日に業界理事OBの集まり「無双会」が明治記念館で行われる。偶然にも私達の49回目の結婚記念日に当る。

2004/12/3 先勝

おいらくのまた夢を見む玉子酒
降る雪や三和土にのこる手毬唄
年の酒なみだ出るとき上向いて
寒灯や喪中の家のにぎやかな
年初め九十五歳の葬りとて



もう一度寝釈迦に逢はむ紅葉酒

今村映水先生の奥様の訃報を聞き驚いた。

東一句会では多くを語らぬ先生。謹んでお悔やみ申し上げます。

内の長男が小さい時から呼吸器で喘息発作があり小児科の、その時の医師が今村先生。小学校を出るまでご厄介をお掛けしたものである。当時は外来は右の坂を下って現在の裏側からはいったものだ。その息子も現在では元気で余丁町小学校で日曜などテニスを教えているようだ。

今更ながら今村先生に感謝申し上げます。

『萱』9月号に「うどん」を載せたら足利の萩原あや子さんから電話があつて行道山の、あの「うどん」、をクール宅急便で送ってくださった。名物には銘品をと伊勢丹から「天一」の天ぷらを買ってきて一家で食べた。美味しかったこと。

西糀谷の関医院、関忠雄さんから葉書を頂いた。嘗ては国立病院の先生、昔の思い出に耽っている。

2004/10/23 霜降

廃校のふところさくら 一列に
はらからを九段に忘じ 初桜
戦友会枝垂桜にひざまづく
君が代は呟きてこそ花ひらく
花万朶年は消すもの取らぬもの
花ちるや成るやうになる 一段落



高粱米を負ひ春宵の葛西橋

2月18日亀戸駅北口商店街に「梅まつり」の旗が揺れていた。

そば屋で昼をすませ、亀戸天神正面から入ると太鼓橋が見え橋の上からは梅は未だしの感である。遠目には枯一色、近づくと白梅は精緻な光を湛えていた。三々五々参拝神社を一巡りして句会前の一時を舟橋屋で「くず餅」に寛いでいる。平穏な時間。

思い出せば60年前、昭和20年3月10日、出張先の富永精機亀戸工場で夜分B29の空襲に遭い、同行従業員の実家の市川へ避難した。翌日工場へ戻ると旋盤だけが焼け残っていた。

近くの川には多数の人間が浮いている。福島への帰路、上野駅まで歩いたのだが道路に馬が殞れ兵士がスコップでトラックへ死体を揚げていた。

左手の亀戸天神は鳥居が煙の中に立ち、亀戸駅の階段には白骨が重なっていた。この吟行、千載一遇のチャンスで肩の荷を降ろした思いもあるが、何故かいつまでも空しさが残る。

東京大空襲から60年となる3月10日、台東区は「平和のつどい」を浅草公会堂で催すと言う。

2005/3/6 友引

川の面が町を潰して梅ひらく
探梅へくず餅がよし生きほとけ
亀戸に亀は隠れて梅の花
歳ゆたか仏壇へこそ雛あられ
初空襲早稲田でありし蓬餅
啓蟄の坂人情はほろびけり
あちこちに鍵入れておく蝶々かな



手袋に右左ある寒さかな

年末から身体に変化が起きて元旦を境に多量に出ていた腓液がピタリと止った。1月24日に外科担当医、寺島裕夫先生の手により腹部のチューブを外すことができた。一安心、ホットした。先生も満面の笑みを浮かべていた。これで再手術の心配はなくなったのである。

昨年5月28日入院、9月5日退院以後現在まで四六時中介護してくれている家内には感謝の言葉もない。

心配をお掛けした各位に厚く御礼申し上げる。10kg減った体重も2kg増えてきたし元気も出てきた。体重増加が如何に大切なことか、思い知った。お陰様でこれからは自由に外出も入浴もできる。

2005/2/4 先勝

出羽五月しろき花より咲きはじむ
ダムに無き雲を植田の上に置く
朝市や出羽の谷間の白つつじ
さみだれを旅のはづみに最上川
即身仏と張りあぐるや新樹光
水芭蕉雪の中なり湯殿みち
湯殿山はだし詣でや雪のこる



つつじからつつじへ歩く佛たち

四月号後記で空襲を三月十日夜分としたが未明であることが戦災資料センター吟行で解った。先日亀戸へついて、その夜灯下管制のちゃぶ台の上に蜜柑がのせてあるのを思い出した。未明の空襲で三月十日、その日のうちに市川を往還したのである。福島へは恐らく夕方には戻ったのであろう。

疲労困憊母に起こされ会社から大変叱られた。遅ればせ乍ら工場の様子を伝えた。

六十年間の勘違い。ライブドア、フジテレビが世を騒がせた。我が河田町で創立、お台場で大発展したフジテレビジョンは現在も町の有力な町会員である。

2005/5/1 先勝

花咲くや散るやまさかの時来る
虚子の忌は父の生まれ日甘茶佛
遊びにも鞆をもちて青き踏む
立ち眩みビル一斉に夏兆す
男みな痴漢に見ゆる夏は来し



天皇陛下万歳と言ふ桜かな

三月二十日は私の誕生日、お彼岸なので家の者と山梨へ墓参に。車が混むので朝六時自宅を出発、幾つものトンネルを潜り七時半頃菩提寺に到着した。大分寒いが寺のしだれ梅は満開である。

墓掃除供花線香を済ませて堂内で小憩、また甲州街道へ交差点に出ると左側に故武井久雄様の武井医院の看板が目に入った。医院は健在である。

帰りはこの十字路を右へ本家のある相興中尾を通り、一宮神社の脇から後方に雪の南アルプスを眺めつつ新宿へ、往き帰り真っ白い富士に出会えたのも記念すべき一日であった。

その足で萱句会へ。

2005/4/3 友引

新宿暑しビルの塊西ふさぐ
原爆忌おのおの水を持ち歩く
流れ星宇宙を泳ぐことにする
階段を十三のぼる天の川
夏休み畳の冷えを楽しみぬ
指さしてたとへば白き秋の水



菖蒲湯やをとこは創を労りあふ

昨年5月28日、国立国際医療センターに入院、9月5日に退院やがて一年になる。

思えば昨年一月の「萱」城ヶ島初旅での失態、「萱」の皆様に変更、お詫び申し上げる。あの時の腹痛は胆管結石の前兆だったと思う。城ヶ島から自宅まで、ご同行願った小島良子様、佐久間純子様には当分頭が上らない。

さて、今年に入って5月に保護司会の面々と山形県、温海温泉へ。6月には「かまつか」福島県、会津一泊吟行に無事参加できた。

山形の最上川船下り、瀧水寺大日坊神助海上人 即身佛、湯殿山蹴参り、会津は東山温泉泊。猪苗代湖畔散策、野口英世記念館見学、白虎隊の飯盛山が印象にのこる。

お蔭様で少し身体に自信がついてきた。

2005/7/3 先勝

白をもて会津に入らん夏帽子
磐梯へなべて植田の列そろふ
磐梯へ一片の雲すかんぽ囃む
英世の言葉まぶしき白つつじ
語り部は飯盛山へしやがの花
白虎隊の墓手をかざし手をかざし
夢二歌碑宵待草と明易し



二度あひて三たびの別れ五月尽

結社誌は締切りもあり期日に届くのが常だが所によって早目に来るものもある。

スランプだと何時も追い掛けられている。追いつき追い越すには自分をいつも燃やして、いなければならないのが俳句。

さて、今年出句で大変失礼して仕舞った。(黙っていれば判らぬことだが) すらすらと口を突いて出来た一句。授かったと思っていたら古いものを見ている中に十二年前に出ているので吃驚した。「白し」「ひかる」の下三字の違い。焼きが回ったのである。

瀧先生曰く「授かりものには今後十分気をつけよう」

2005/6/5 友引

紐育にて紫陽花の青い時間
大聖堂燭を十字に切りて夏
女神像手を上げてをり夏没日
居酒屋の秋刀魚いっぴき紐育
金婚ヘナイヤガラの瀧とどろける
緑陰に涙あつめしレノンの碑
秋の風グランドゼロをつつ抜けに



禍いの福にかはりし暑さかな

『萱』の林試の森吟行は私にとって何時になく好成績だったと思ったが、先を急いで途中で退席したのが失敗の始まり。新宿駅西口改札を出て、財布がポケットに無いのに気が付いた。諦めていたが7月19日早朝、大崎警察署から電話が掛かり荏原在住の上原博様が拾得、届けてあるとの連絡であった。(目黒駅から転送の由)早速、大崎署へ駆けつけ、財布を受け取ってきた。帰ってすぐ拾い主の上原様(電話不明)には早速礼状を添え、些少だが御礼をお送りした。
「良いあと悪い」とよく言われるが、翌日夜分上原様から電話が入り一件落着した。

7月20日は父の祥月命日であった。反省しきり。

2005/8/27 大安

湿生花園月見団子を奉る
歩かぬと決めて歩きし女郎花
逆立ちて仙石原のすすきかな
山宿の月見団子は鵝色に
月今宵墨が磨りたくなりにつり
枯れいろに人は隠れてすすき原
すすき原出てきてからの上の空



年を取ると何事も億劫になり勝ち、動きが鈍くなる。どの町にも大概高齢者クラブがあって各区も高齢者のための活動をすすめているようだが、世は介護産業も発展している。その点元気になって句会も吟行も私にとって大変意義あるものになってきた。

先日も萱の仲間に誘われて品川区の林試の森吟行に参加した。この森は区民、一般にも開放され広大な緑地に大きな木々が保存されている。中には水場もあり、久しぶりに子供らの水遊び風景を見たり、ひそとある蘆、紫陽花の沼、或いは緑陰に蜻蛉、鯉、亀などの棲む大きな池、門を出ると辺りには檜扇が咲き誇り水車が廻っていた。お蔭様で懐かしく楽しい一日であった。私には「魂の移動」であり、若い人の様には行かないが、この移動の慣れが今、私に必要なのである。

十二月八日銃後はうつくしく
月を引つばる金星に冬定まる
騒然と日本列島雪催
落葉道みんなで行けば恐くなし
クリスマス螺旋階段のぼりつめ
雪女すれちがふとき笑ひけり
十年後はこの世になしと決めて冬



ブテックは女の時間かなかな

8月はニューヨークへ。9月に入ると業界旅行で伊東米若荘へ。選挙が終わって『萱』一泊勉強会へ、国勢調査の途中で25日から町会連合会の鴨川研修旅行へと忙しい。この間、町の秋の全国安全運動にも参加する。身体は順調だが酒類は控えている。それでも旅へ出ると収穫はあるもの、ナイヤガラ、テロのグランドゼロ跡地、海上から見た女神像、国連本部等々。もう二度と見ることは無いだろう。伊東米若荘の入口の虚子の句碑は思い出に。

ほととぎす伊豆の伊東のいでゆこれ 虚子

2005/10/1 大安

せんべいに齒を食ひしる秋の暮
人混みは日本語ならず一の酉
二の酉やボルガへ遠くなりし道
大熊手まはりから見て冷やかに
神主は搔込み知らず一の酉
自衛隊から餅つき案内憂国忌



蓮ひらく十三夜とは櫛の店

この度の衆議院解散は驚きだが小泉首相の決断はいたし方ないだろう。刷新を望むしかないと思っている。私の地域町会連合会でも既に春から動きがあり、これが良いものか悪いものか。郵便局存続つまり、郵政改革反対の署名運動であったが、私の町会では有志のみとした。始めに反対ありきでは納得いかない。当町会としては会則の第二章、目的の項第四条「政治に関与せず」を忠実に守った。地区町連でも郵政協力会に名を連ねているが、これは可笑しい。選挙になったが良い方に向かって欲しいと思う。今年は国勢調査もあるし町は忙しくなる。

2005/9/17 先負

寒紅梅うつすらと笑み浮べけり
梅ちらほら池の憂ひを拭ふべく
風音と梅開く音別にあり
いそいそと探梅の徒は傘を抱き
ひらくより散る白梅や石の上
甘酒は立って呑むもの梅二月



師走風人に後ろは見せまじく

平成 17 年はライブドア、フジテレビ問題に始まり、郵政改革の旗印の下に衆議院総選挙小泉劇場の大勝利が賑やかに世を占め、後半は目を覆う少女誘拐殺傷事件、耐震データ偽造、証券発信ミスと何れも仁義なき生命軽視の戦いである。北朝鮮の拉致事件など影が薄くなったことは誠に残念である。タバコ、第三ビール税値上げ、種々控除削減削除など今後どうなっ
てゆくのか弱者は潰されてしまう。切羽つまれば姉齒氏ではないが悪いこと
もしたくなる。

狂へるは世かはた我が雪無限 目迫秩父

2006/1/23/ 大安

灯さずに自転車がくる北京の冬
十三陵八達嶺と旅はじめ
枯れ枯れて帝陵は朱の壁を持つ
帝陵に龍の爪てふ寒尖る
帝陵をくぐり抜けたる枯れ千里
廁使用一元と言ふ寒さかな



石榴裂け地球にテロの無くなる日

退院して 1 年と 2 ヶ月、身体は順調だが通院と薬は続けている。家業は内のものに任せて会計帳簿だけにしているが、ときたまバイクで外交に出掛ける。まだ貧乏性がある、もの足りなさ淋しさが残っている。サラリーマンの定年はこのような心境かもしれない。あとは町会長だから行政の連絡事項がのべつあって出席するが大方は雑用である。

私事だが先日、大木戸の四谷地域センターで年末調整の説明会を 2 時間聞いてきた。結局は配偶者控除と老年者控除が廃止され増税なのである。業界も不況だし気分は俳句 どころではない。されど俳句。

2005/11/1/ 友引

一年生桜ちるまで落ちつかず
初鯉人の噂にまばたける
桜咲き今日は何の日国旗立つ
カメラの目しだれ桜は風を待つ
老いてこそしだれ桜は池にふれ
遅さくら越後訛と思ひけり



入口に傘立のある梅点前

新宿区俳句連盟会報の『彩雲』は2月を以って615号を迎えた。縁あって戸山社会教育会館で句会が出来るのも瀧春一先生はじめ代々の会長並びに運営委員会員の情熱と、協力のお陰である。

思へば昭和25年戸山ハイツ1号地に『みどり』発行所(松本翠影主宰)があった事も幸いしたが、ハイツ周辺の少数の俳人の手によって新宿俳連は発足したのである。「俳句を新宿区文化活動の一環として」の要請はハイツの佐々木元三氏が新宿区教育委員会へ足を運び、同委員会内に事務局を置くことになり、氏のガリ版で新宿俳連会報第1号が発行された。

大木戸の四谷公会堂で昭和28年10月、岡田昇三区長並びに都内の高名俳人出席のもとに盛大に新宿区俳句連盟の発会式が举行された。

2006/3/20 仏滅

ひとつだけ取得のありし木の芽和
春夕べ遺影笑ひてかなしまず
出る杭は打たれる丁子香をながす
甲州市笛吹市山笑ひけり
花ひらき池の緋鯉を俄かにす
涙なき卒業式が氣に入らぬ



万里の長城荒涼として初霞

娘のすすめで1月2日、早朝成田から北京へ飛んだ。午後1時30分(中国時間)北京空港に到着、ここは氷点下で格別の寒さである。その日はホテルで休息、翌日3日はバスで十三陵へ。中国皇帝陵は十三あるそうだが、ここの一ヶ所だけ発掘されあとはそのままにしてあるそう。皇帝の柩は階下の、厳重な幾つもの扉の奥に皇帝お后と二つ並べて置かれてあった。皇帝博物館には副葬品が飾られ往時を偲ばせる。

そこから又バスで万里の長城へ、家族を下の集合地に残して番小屋の四つまで登って降りてきた。

周囲はただ荒涼の初霞。

2006/2/5 友引

石夫逝く囀り遠き日のままに
桐の花忘れられたりわすれたり
どくだみは上を向く花父帰る
とある日の決め手となりし草いきれ
額の花耳遠ければ振りかへり
深川に簾編む音のこりけり
荒梅雨の萬年橋にたもとほる



行く春や大隈像は杖を突き

久し振りに吟行に参加した。昔、大隈講堂で徴用者の壮行会があって、詩吟神風流岩淵神風が大楠公「豹は死して皮を留む」を詠ったのを覚えている。新入生歓迎の応援団の騒ぎの中を大学構内に入る。5号館1階の坪内逍遙記念館、2階の六世中村歌右衛門特別記念室、3階では古代の伎楽、記念室、3階では古代の伎楽、舞楽、散楽と中世の能、狂言、近世は歌舞伎人形浄瑠璃、新派、新劇、新国劇、喜劇ミュージカルまでタイムスリップ。

最後は秋艸道人の書並びに膨大な中国の蒐集品には驚いた。俳句は出来なかったが、興味津々大変勉強になった一日。帰路、夏目漱石終焉の地猫塚、多聞院の松井須磨子の墓と、皆様には忙しい思いをさせて仕舞った。深謝。

2006/5/1 先勝

銅像のうしろに廻り囀れり
浮世絵の眼差ここの春愁ひ
八一の書肩の力を抜きて春
芭蕉庵都忘れのありてこそ
あをあをと銀杏気根をもて余す
亀鳴くや年の功にはさからはず



万愚節古き手紙は取っておく

平成18年3月20日は小生の誕生日、やっと八十歳になった。俳句はさびしいが、吟行にも参加するつもりでいる。先日、亀田虎童子様の言で電子辞書を見ると「出る釘」は見当たらず「出る杭」が載っていた。ここが天と地になる。有難く修正させて頂いた。

3月23日、小石川後楽園へ行くと枝垂桜は見頃で染井吉野もちらほら、24日の柴又吟行は参加出来ず残念だった。当日は午前中、余丁町小学校の卒業式へ午後は牛込警察署の「春の全国安全運動」説明会と忙しい。一線を退いてからもこの役があり、俳句があるから身体が保っているのかと思う。さて、4月2日は朝から雨の予報であったが、心配も見事外れて新宿御苑の桜も満開で、町会婦人部のお花見は大成功だったそうだ。

2006/4/8 先勝

手ぬぐひまで涙を拭きに大暑の日
ひとつとやひとりやもめの冷奴
八月やけいたい電話うしろ向き
虹見しと言ふ幸せを分ちあひ
初秋や鍵の中から鍵さがす
茶碗から茶わんへ納豆の糸初秋
冷房を出ていきいきと深呼吸



俳諧は素心仏心石巖玉

週末は「宮廷女官の誓いチャンダム」（NHK土曜夜 11:10）を妻と見ている。16世紀初頭の朝鮮王朝宮廷料理人の権力争い。チャンダムはやがて王の主治医になるまでの物語で現在のポスト小泉首相憶測にも重なり興味津々である。

昨夜5月27日の「新たなる挑戦」は医女を目差して朝廷へ復活のチャンスを狙う猛勉強苦学の場面に入った。やがて鍼医学の画面に及ぶと文献が現れ一瞬だったが、日本海軍軍医云々で東一句会の山下久三夫（大杉）先生の名前が出て、研究の資料が映し出された。現地での鍼研究の話は聞いていたが、まさかの巡り合いである。嬉しくも懐かしく。

2006/5/30 友引

遠い七月落合にちちとはは
過去帳の前にそろひて茄子の馬
葛ヶ谷に葛咲きかつてさまよへり
五十年相性あはずビールの泡
椅子あれば坐っても見し夏帽子
日傘を雨に女心のかはるとき
銀座通り二人は暑しひとりゆく



晩年は歩幅を数へ紋白蝶

5月2日に相模湖正覚寺第28回句碑祭に出席した。東京は晴れていたが相模湖は本降りだった。正面入口の石段を登る。右側3、4段目の私の句碑「母の日や」は健在。受付の前に、瀧先生の白蝶句碑に合掌。3人句碑に佇む。それぞれ苔むして歳月の重たさを感じる。裏山の瀧つつじは3分咲き未だしの景である。正覚寺庵主の山田咲花老師は97歳とか矍鑠として挨拶された。句会は52名、盛会裡に執り行われた。さて、小生は不発だった。今井とし江様を頼りに、小川まさ子、天野みゆき様不在は何故かさびしい。

帰りは相模湖駅まで上野原の仲間が自動車で送ってくれた。地元各位の歓迎に感謝。

2006/5/14 友引

柿どきやところどころの水光る
遭難碑耳を澄まして紅葉する
ちちを探しははを捜しに紅葉山
全山紅葉天つつぬけに語りあふ
何よりも雑木もみじの暖かし
歩ききて届かぬ道や枯尾花
目のまはりから紅葉して別れけり



卯波に一礼真砂女も盆の十五日

梅雨ながら堀之内吟行は成功だったと思う。2日たって日曜日に家内が蓮を見たいと言うので不忍池にしようか迷ったが、同じコースを歩いてきた。蚕糸の森公園の大滝を見せ、妙法寺へ。丁度門前の環七道路で車の横転事故があり警察は大騒ぎだった。7月23日は土用丑の日で御縁日。私達は祖師堂へ上り「家内安全」の祈願をして頂く、鐘木魚が鳴り雛僧の読経が始まる。すると目の前の御簾が上がり日蓮祖師像が現れた。私も数珠を構えて南無妙法蓮華經、有難い一日になった。さて、拙書「わすれくさ」で大正天皇御産殿移築を真盛寺庫裡と書いたが誤りでこの吟行で宗延寺客殿と解った。不備をお詫びする。

2006/8/6 先勝

時計の針まはして秋を春にする
シドニーは春旧き煉瓦を積み重ね
オペラハウス七十二段春の風
ブルーマウンテン石楠花の花ざかり
ねむいコアラにカンガルー跳ねて春
シドニー桜はや新宿を恋ひにけり
オペラハウスへさようなら夏帽子



止むをえず八十を越え冷奴

清澄庭園、芭蕉記念館は何度か訪ねたが、万年橋は遠くから眺めた程度だった。この度は深川の芭蕉記念館へ暖流、中央俳連、萱の俳縁工藤伊代子様の追悼句会に参加した。さて、工藤夫妻には暖流、新宿俳連、私個人も印刷の面で大変お世話になった。その昔夜分バイクで皇居前から呉服橋に出て東京駅八重洲口前を真っ直ぐ入り昭和通りの少し手前を左に入り左側が工藤印刷で印刷機の間を抜けて座敷に上がったものだ。その頃は、お婆さんも元気で猫も居た。万年橋で芭蕉像に逢えたのも伊代子様のお陰かも知れない。界限は紫陽花も見頃だったし深川で簾編む音を聞くと、江戸の風情をそれとなく。

2006/8/6 先勝

カシミヤ被て動物園の冬かこつ
冬ながし鳩遊ばせる犀の角
誰よりも河馬に逢はんと来しが冬
白熊のうす汚れたる木の葉かな
鶴の檻見てきてからの年用意
銀杏散る蝦夷鹿は目を離さずに
銀杏金色隆盛像は犬連れて



息吸って止めてください草の花

シドニーは煉瓦造りの整然とした町だ。ところどころビルも聳えているが大方は旧きものを遺している。地震のないせいであろう。外観はそのままだ。中は現代風でメーカーが店を並べている。町の色はレンガ色、薄いピンク、白等淡いものに統一されているようだ。この落ち着いた雰囲気は旅行者を和ませる。交通はバス、電車の時間が当てにならないから自家用車が主になっている。町の信号は案外少なく自転車は走っていないかった。ネオンは点滅禁止。しかし、コカコーラは罰金1億円を支払って点滅を許可されている。サラリーマンの昼休みは午後3時までで午後5時に仕事は終わる。店も午後6時に閉店する。日本に比べて国も広いが国の方針、人々の心の豊かさを感じた。その反面、節水・乗車時のシートベルト着用等細かいところで大変厳しいようだ。おおらかだが締めるところはしめている。

ホテルでテレビを点けると紀子様、親皇ご誕生のニュースが流れた。

笑ひ声絶えて久しき夜長なる
目立たずに生きてゐるだけ明治節
山茶花の白に始まる散歩みち
立冬や男と言へど針仕事
約束の一つを反古に三の酉
うつくしく病み余念なし温め酒
マスクして余った時間消しにゆく



蓮池は遠目に花を隠し持つ

終戦記念日を過ぎ8月18日の小石川後楽園吟行は何時より懐かしい。私は庭園の外側を辿り今までとは違う風景を廻る。西行堂から由緒地名を学習しつつ東門出口へ内庭を過ぎ愛宕坂の石段上から大池を見下ろすと遥かに仲間達が歩いている。花は睡蓮と蓮が目につくのみ、最後に朱の橋を渡り会場の円月へ、昔二度こと奥の部屋で出版記念会をしたことがある、一つはかまつか主宰、金子麒麟草の句集出版記念会と、もう一つは筒井恒「恒山詩藻」と言う漢詩集出版記念会であった。筒井氏は盧溝橋事件の連隊長。その中に昭和20年8月18日作「終戦詔書」があり「聖断無辺停戦なり、微臣愧ず可し死余の生、神洲不滅誰か疑はん、恭しく詔書を拝して泰平を開かん」とある。偶然同じ日。

2006/9/22 友引

ゐるはずの狼は居ず冬休み
着ぶくれて転ぶも易し神楽坂
ゐのししを画きはじめたる炬燵かな
弟病む枯野を渉ることにする
枯野が好きでまっすぐに遠いみち
一月の夢のつづきをみてゐたり

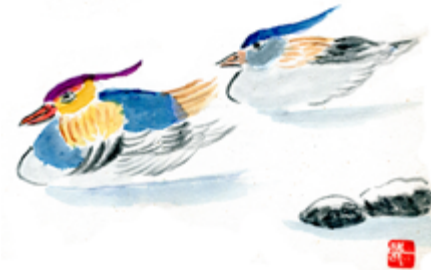


木に登るから秋風が見えてくる

陽気も良いよいよ俳句の季節。先日「かまつか」の吟行で水上から天神平へ、山々は薄紅葉であった。皆と交流出来たことは私には大変刺激になった。さて、馬齢を加えて関きは激減、拙さで纏めるが、まさに締め切り一郎。電話で忘れることも、これから月予定表に書き込むことにしよう。

最近町会、行政の行事会議などで大事な句会をやむなく欠席するようになってきた。今までそう感じなかったが、齢のせいであろう。例えば全国秋の交通安全運動、防火防災訓練、赤い羽根募金、区長選挙等たて続けに町会に駆け込んでくる。いいはいいはの、依頼がいじめに思うようになってきた。子供苛めの被害が叫ばれるが町会にも配慮が欲しいものだ

2006/11/17 大安



9月5日夜9時過ぎ、娘に連れられてオーストラリア・シドニーへ成田を飛び立った。9時間25分で向こうへ着く。機内で時計の針を1時間すすめた。気にいらぬ旅だが家内が旅行好き故ついてゆくしかない。シドニー空港には朝7時過ぎに到着。入国手続きが済むとバスで水族館へ、大きな鯨が泳いでいた。小中学生の見学もあり賑わっていた。港なのであろうか東京の鳩のように鴿が寄って来る。待合室でコーヒーを飲んでいると店内のケーキ・パンなどを海鳥たちが攫ってゆくが店員は全く無頓着で気にしていない様子である。お国の違いであろうか、声も立てず手で追う程度でおおらかなのである。つまりコセコセしていないのである。異国へ来てリラックスできた。しかし昼に食べた橋向こうの中華そばは旨くなかったナア。その夜は近くのホテルで一泊。翌朝はブルーマウンテンへ。

ブルーマウンテンはシドニーから西へ100キロ、ユーカリの大渓谷が広がる世界遺産だ。高原のホテルで2泊。この辺は桜が咲き始め、ホテルの石楠花は花盛りだった。シドニーは早春なのである。急斜面の鉱山トロコのスリル。動物園のコアラ・カンガルー・孔雀・みみづく、名の知らぬ原色の怪鳥には目を瞠った。煉瓦造りの町、あのオペラハウスの幻想的な夜景は忘れられない。間もない私には感慨の旅となった。

2006/10/13 大安

良寛か一茶かひとり春を待つ
とある日の紅白の梅申告期
丸い箱四角い箱とバレンタイン
見える処へ句帖を置いて春を待つ
白か黒かパンダの足裏日脚のぶ
何や彼やふたりになりし雛のころ



明日とはきのふの今日や初しぐれ

十月は地元町連合会の研修で伊那市高遠町へ、快晴に恵まれ杖突峠からの紅葉は絶景であった。高遠は内藤頼直が最後の藩主で新宿区との交流が深く新宿御苑の内藤家も現在、内藤町一番地にある。仁科ホテルの懇親会では高遠町町長も来て挨拶していた。2日間地元の職員に案内され古跡を見て歩いた。国指定史跡城址唯一の建造物、進徳館。臨済宗建福寺（武田勝頼の母、由布姫の墓）浄土宗満光寺は内藤家菩提寺で一族の墓が落葉の中に。

これは私だけ訪ねた日蓮宗蓮華寺だが、ここには絵島の墓があって、女人像が珠を手にとって立っていた。高遠城址公園の桜紅葉の中に句碑が一つ。

花を花をきて花の中に座り 井泉水

2007/1/13 大安

八の坂三味も流れて過去の冬
句碑を去る石の冷たさ手にのこし
小間客間暗きに近き冬ともし
しをしをと歩む良子か寒椿
忘れかけた風景に冬惜しみけり
山茶花や毀れかけても師の旧居



年行くや人生と言ふ毀れもの

人に相性があって、大方は九星・生年月で掴める。結構抜け道があり、吉凶プラス・マイナス・ゼロにもなる。本命は凶、月命吉で助かり干支で難を逃がれたり。私の処など家内が五黄申で、私は二黒寅の反対側に位置し大凶だが、九星では土星同士比和関係にある。だから五十年何とか持ったと思っている。六十歳を過ぎると相性の善悪はなくなると或運命書に書いてあったが、高齢になれば酸いも甘いも解って丸くなる。新しい暦が来ると遂思い出す。

相性はあつて無きもの今年酒

2006/12/16 大安

木々芽吹く病むかあそぶか何れかに
ききすます池の心音花こぶし
芽柳の池にとどきし遊びかな
一石を投じて去りぬ鴨の水
ほたるばし甘藍の碑と囀
私を忘れし人や猫柳



林芙美子もんどり打って冬日射

1月17日早朝、地元高齢者クラブの成田山初詣に出掛けた。この辺を牛込地区と言うが、昔から比べると半分の参加者。それでもバス3台、150名と言う。天候は小雨ながら若松町から約2時間で成田へ到着。大型バスの駐車場は何時もの処である。成田山新勝寺へは上り坂で参拝はてんでに、私は受付に朱印帖を預け本堂に参拝御札を納め、新たなものを頂き身代わりとして胸に入れた。朱印帖を手にとると皆とは別行動、駐車場へ戻って向こう側を歩けばいいのだが、本堂の前の石段を上がって町へ出た。二又に分かれて左へ行くと、道が解らなくなってしまった。行ったり来たり、町の表具屋さんで聞くと150メートル戻って三つ角の左側ですよと言う。在ったありました。三橋鷹女像。昔お会いしたより少々お若く感じた。一礼して例の角の酒屋で甘酒を嗜みながら鷹女像を眺めつつ昔に耽った。嫌なことの多いこの頃、この出会いが私を勇気づけてくれる。

2007/3/18 大安

笑顔して別れの言葉冬惜しむ
横切りし顔は私か梅ひらく
痩せてゆく弟に梅白きかな
石段を登ると決めし春ときめく
朝刊に二二六の無き寒さ
雪来るか二二六の月真上
大正のほどよき遠さ雛飾り



上海は一と月遅れ姫つばき

暮れになっていろいろなことが起きた。弟が国立病院で診療の結果膀胱がんと解り担当医に呼ばれた。家族と同席したが医師ははっきり弟の余命を告げた。昔は考えられなかったことである。私も大変ショックを受けた。私は私の手術後、弟達を中心に営業してきたが弟が入院闘病となれば、これから少しづつ仕事に手を出さなければならない。運転免が今年で切れるが、止めようと思っていた免許を更新すべく近々高齢者講習とクリーニング師講習を受けることとした。われわれのクリーニング業界は不況の最中にあるが、小生二黒土星中宮の八方塞りに。

その後弟は退院し仕事に復帰したが、当分見守るほかは無い。

2007/2/17 大安

先生と遂に呼ばれて茄子の花
草の餅ものの弾みで笑ひけり
父の日のうな重と言ふ脆さかな
あぢさみを袂に入れて死するべく
弟が杖ついてきし暑中見舞
朝顔市露地に昔の風ながる



春風や昭和は雲の中にある

雪を忘れて何年になろう。東京の雪景色が恋しくなった。私にとって2月は大変な年で2月1日は母の命日、その26日に例の二二六事件があった。悲しみを抱いた少年は急の学校休みで早朝、母校の裏門から校庭の雪景色を覗いていた。2月になると思い出す雪と悲みの日々、これは一生ついている廻ることだろう。亡母の代わりに生まれた妹も70才になって健在である。

従って私10才年上の80才。先日、練馬春日町の教習所で高齢者運転講習も終え、都庁舎で無事免許更新を済ませた。

2007/4/25 大安

つつじ緋に人はうつつを楽しみぬ
藤房に激しさはなく人揺るる
とりあえず蕎麦を食べんと更衣
青嵐ひとときは耳も遠ければ
母の日の花束妻はひるがえり
人と離れ隠れ煙草も目借時
足利の山藤見しがあや子逝く



立春大吉肩の力を抜いてゆく

私は俳句に恵まれたと思っている。終戦時空白の中、疎開地で句会に参加したのが縁だが、俳句によって生かされてきたと言おうか、見えぬ方へ引っ張られている感じである。昔は、「俳句を老人の玩具にしてはならない」等と粋がっていたものだが、最近引っ張られていると思うのは、老いのせいかも知れない。さて、俳句も思わぬドラマを見せることがある。それは父が東大久保（新宿七丁目）へ地所を求めようと計画していた時、先方が中々首を縦に振らなかったが地主が偶然私の俳句仲間だったので、一郎なら。とスムーズに話が決まったのである。それは、梯子坂上の中村花秀翁（立派な白い髭の方）で、戸山ハイツ松本翠影主宰『みどり』発行所の句会に出入りしていたのと、西向天神梅鉢句会の庵主が細野宮司（俳号・掃丸）で、私も両句会に参加していたので言わば「俳句」が私を信用して呉れたのである。細野宮司が保証人になって話し合いは芽出度く成立した。当時、一坪千五百円也であった。現在、息子が建築した3階の1階を私達が使いつつ週一度か二度休息に通っている。

2007/3/28 大安

弟の顔を上げざる暑さかな
体重の一気に減りし百日紅
昔いま互ひちがひに欠き氷
夏痩せや鏡の中の裏と表
弟と語ること無く秋を待つ
海の日海さんずに母と書く



六月の旅線路とは錯びるもの

『萱』5月号で萱の創刊10周年を知った。目出度いことである。これは『暖流』解散時、会員の中に路頭に迷う人々の声が出て『萱』が出来たもので今日に到ったのである。10年続いたのは亀田虎童子代表の牽引力と執行部の献身的な努力のお陰である。お喜び申し上げる。

私もこの10年、2度の手術を行い運良く命を取りとめた。泌尿器科は4月に5年経過放免され、外科は3年になるので飲み薬は不用になり後はCT検査を待つばかり。弟が東一に通院、従って私も現役にかえり句会など昼間の出歩きはままならぬが、弟から仕事を恵まれたと思っている。

先日町会の旅行で館林のつつじと「あしかがフラワーパーク」の藤の花を觀賞してきた。翌日、『萱』の小島良子様から足利の荻原あや子様の逝去を知らされた。何故か因縁を感じている。合掌。

2007/6/5 大安

朝顔市露地に昔の風流る
朝顔や人の情けを受け皿に
夏草は薄むらさきに鳥鳴く
身構へし傘透明に梅雨茫々
昔いま互ひちがひにかき氷
消へてゆく日々紫陽花に囲まれる



さるすべりまで手のとどく春の水

石神井公園吟行に参加することが出来た。私の家から大江戸線練馬乗換えで西武石神井公園駅に30分で到着、便利になったものだ。まず良子さんとお会いして早速私なりに同業者の店を覗いて歩く。やはり商売が気になるのである。価格表を見ると私の店の約半値。この練馬地区も30年前の料金で頑張っているのだ。さて、吟行で伊藤一そう人さんに会えて良かったと思う。氏から故玉置石松子、山本鬼木氏の名が出て思わぬ交流が出来た。石松子さん「えんじゅ」を二つに分けて鬼木にしたのは知っていたが、このことは初耳である。

故人を思い起こさせたのは彼岸のせいであろう。

2007/5/4 友引

死んでなんかいませんと弟の夏
土用丑ふるきのれんを守るべく
土用鰻俳諧ふるくなりにつけり
夏の雲とどまりしまゝ風の町
猫足の墓のいくつか蟬時雨
人の来る方へ進みて秋うれひ



桃を画く何んだかんだと猫が泣く

私の店はバス停の前だから人通りは案外多い。地下鉄駅も出来た関係もある。薬局が増えたのは近くに東京女子医大病院、国立国際医療センター（東一）があるからだと思う。

近所にマンションも建って種々の人達の出入りが激しくなったが、私共の商売には効果はなさそうだ。わが洗濯業界も安いチェーン店に圧されて東京の組合員同業者も昔は 5,000 名あったのが今は 2,000 名である。それに引き換えチェーン店は 2 倍に、これは政府が物価統制を止め自由競争に走らせた結果である。世代の交替もあろうが町の酒店、魚屋、八百屋、惣菜店等は無くなりコンビニが残った。界限さびしい町に。

2007/7/12 先負

桃を画く十年先を見とどけし
影の手を振って歩めり夏帽子
あぢさゐははや忘れられ海の色
弟の夏六文銭と登山靴
目の前が暗くなりたる百日紅
暑き日の弟の頭の冷たさよ



泰山木の花潔白で押しとほす

平成 15 年 8 月に市谷八幡神社祭礼を実施以来中止していたが、町の若い人達から祭りの声が上がった。良いことであり賛否はあったが私、町会長として賛成した。即、祭礼委員長にさせられてしまった。早速、皆で神輿庫へ、必需品を調べ始める。いちばん草臥れているのは、祭提灯で二十年経つとボロボロ、大人神輿の化粧綱も駄目で新しくする。河田町町会はずっと屋敷町で現在も仕舞屋が多く大半は東京女子医大病院学校が占めている。奉納金の集まりが心配だが、みんなにせいぜい奮発してもらおう。

祭礼は 8 月 3、4、5 日の 3 日間。御神酒所、盆踊り会場は前回と同じ都地下鉄大江戸線若松河田駅脇小笠原伯爵邸前広場である。都内では稀少な、お囃子を先頭に山車大人神輿、子供神輿が町内を巡行する。

2007/7/12 友引

どの道も真つ直ぐに見え後の月
自動車に目のふたつある秋の暮
やかなけり使はずと決めつづれさせ
背水の陣怠りのなく金木屋
十三夜なぜか浮きうき人の影



土用丑ふるきのれんを守るべく

弟を見送った翌日東一句会の会場受付を済ませた。今後、『萱』本部句会が無くなると思うと淋しい。暖流の諸行事は、この戸山社会教育会館で行ってきたので感慨無量である。私の処から会場は近いから早めに行くと、いつも足利の荻原枯石、あや子さんがドアの処で待っていた。如何に瀧春一先生を慕い暖流に愛着を持っていたか、図り知れない。自民大敗、安倍首相は不運であり今年は変化の多い年と予想はしていたが世の変わり目と私は思う。

さて、悪いことばかりではない。藤田宏さんから句集『長城』を贈られた。お喜び申し上げる。帯にある自選十句より一句。

長城の北はありけり蝶はゆきぬ 藤田 宏

2007/8/19 先勝

鰯雲けいたい電話胸にはさみ
敬老の日席ゆづられて断りて
善人は引きぎは悪ろし神の留守
町ぐるみシャッター通り秋の風
蛭籠夕べの星を数へし日



弟に祭り見せんと思ひしに

僭越ですが、ご指名ですので一言申し上げ献杯させていただきます。弟、堀内滋は凄絶な最後でした。7月7日まで仕事に生命を掛けて全てを燃やし尽くしました。息を引き取った後の顔は穏やかに、この混迷の濁世から解放された安堵感です。家族が選んだ。一枚の写真。この遺影は私達に笑顔を浮かべております。

「千の風になって」ではありませんが

「私は眠ってなんかいません」

「私は死んでなんかいません」と言っているようです。

これからも天上から遺された家族を見守ってゆくことでしょう。

故人の冥福を祈りまして献杯いたします。ご唱和をお願いいたします。

献杯！

2007/7/23 大暑

納豆やゆらりゆらりと年始まる
一月のポケット罪のある如し
帽子被れば十年若し初鏡
冬座敷抱くものがない猫を抱く
真ん中に背を搔く柱冬籠
束の間の雪でありしが讃へあふ



交番に老婆保護され十三夜

弟が世を去って三ヶ月、未だ気分は重たく暗い。細木数子の六星占術をパソコンで調べてみると私は木星人、寅年生れだからで零合星人でもある。平成 19 年、運気は＜財政＞で「大胆にチャレンジ、しかし自分にとっては大切な人を失うことがある」と書いてある。私にとって「大切な人」とは弟。「チャレンジ」とは思い切って取り替えた自動洗濯機で新規巻き直し再出発を図ったことに符合するようだ。さて、12 月で東一俳句会も解散するが、淋しいけれど不思議に、楽しかった思い出が走馬灯のように流れはじまる。

多くの思い出が私を勇気付けるように。

2007/11/3 友引

枯れる園ひとり歩きは馴れてぬし
みち二つどっちにしやう返り花
緋鯉見て白山茶花にたどりつく
人生荒行つぎつぎに木の葉ちる
八十は病み盛りさくら紅葉をゆく
ありつたけ紅葉目に入れたぬきうどん



謡泉院青江日静大姉秋彼岸

昨年堀之内吟行のあと 7 月 23 日妙法寺へ行ったことは前に触れたが、偶然今年の 7 月 23 日に弟が息を引き取った。何か因縁があるのかも知れない。9 月 9 日、49 日納骨を済ませた。寺は青梅市の日蓮宗九龍山蓮華庵で、ここに歌手の青江三奈さんの写真が飾ってあり、位牌も置かれてある。弟も淋しくは無いなアーと思っている。その後、洗い場の洗濯機としみ抜き機が毁れてしまい一時、廃業しようと考えたが、思い切って新しいのを入れ替えた。兄貴の急死で、次の弟がノイローゼ気味だったが少し落ち着き私達と話をするようになった。良かったと思う。故人と一緒に働いていた嫁も店を去り人手は家の者三人、また私アイロンを握っている。

2007/10/13 大安

紅梅や天神さまへ琴抱いて
琴鳴るや紅白の梅波立てる
柳の芽かゆいところへ手の届く
身をそらす晩年後期ひなあられ
下萌や人動かねば石になる
はくれんや目がかすむから手をつなぐ



さくら紅葉耳のうらから眠くなる

1月2日から4日まで空路で南紀白浜温泉へ親子水入らずの初旅となった。宿は昨年11月にオープン、息子が設計したホテル「海舟」。五階建の内部は純和風、地味な佇まいである。全館全室通路に至るまで畳敷きで素足で歩けるのは私としては大いにリラックスできた。2日間名所古跡を廻って歩いたが中でも高尾山（606米）摩崖佛が仰げる奇絶峽入り口の句碑に会えたのは何よりも嬉しかった。右会津川に架かる丹の橋を渡るとその奥に一筋の赤城滝が飛沫を上げ旅人を癒してくれる。

久し振りに海を満喫し出湯三昧。子供達との稀少で有意義な旅であった。

葛の花折りて滝見に上がりけり 松瀬青々

2008/1/6 友引

現役や悴みし手をポケットに
喜びと悲しみの雪別に降る
冬帽子まぶかに被り最晩年
番傘を挿したくなって雪の坂
紀元節銃後ましろき割烹着
冬眠のつぎは春眠ねむり猫



こともあろうに冬園にくちづけす

東一の耳鼻科へ通っている。一度診察を受けたら、長い病名を告げられた。耳の中に石があって石が動くたびに眩暈になるそう。目まい薬を20日分もらってきて飲んだが相変わらず。2回目は一と月、同じ薬を飲んでいる。依然治まらない。近日、3度目の通院になるが先生は「生命に別状はない」と仰る。

さて、地元の民生児童委員が地域の改正で私共牛込西部民児協から榎町地域へ一部の委員が分かれることになった。その、お別れ会が先日厚生年金会館で行われた。私も一言述べ前からの依頼で久し振りにハーモニカを吹くことになった。「故郷」「冬景色」「千の風になって」次に11月場所なので「相撲甚句」を、一くさり。精一杯の頑張りである。

2007/11/23 大安

墓を出て紋白蝶になつてゐる
またひとり象の花子と春惜しむ
曾孫生れ枯木に花を咲かせたり
師の句碑の温顔に触れ天長節
つつじから近づいてくる風の行方
一つとや句碑はわが墓つつじ燃ゆ



さくら餅葉っぱごと食べ美しく

今年も3月15日予想通り、はくれんが咲き始めた。巷間、地球温暖化云々と騒がれているが私は平年並みと思っている。毎日新聞朝刊に坪内稔典氏が石田波郷の初蝶の句を取上げた。言わずと知れた

初 蝶 や 吾 三 十 の 袖 袂 波 郷

である。瀧春一先生の初蝶の作が口を突いて出る。

初蝶やいのちあふれて落ちつかず 春 一

波郷の仲人役をした中村金鈴さんのこと、瀧先生が波郷に結婚衣裳を貸した話など思い出した。偶然一日して相模湖正覚寺から第三十四回句碑祭俳句大会の案内が届いた。去年欠席したので天長節には初蝶句碑と私共の三人句碑に会うつもりである。

2008/3/17 大安

三月十日あの日は無料上野駅
自宅にも偶にはかへり沈丁花
雛未だ飾ってありし老夫婦
もの思ひここにもひとり花朧
爪立ちて桜満開ハイヒール
つつじ燃ゆ句碑を己の墓とせり



牡蠣フライ苦味ほろりと涙つば

今年も縁があって成田山へ初詣に、拝礼を済ませ、お目当ての三橋鷹女像に再会できた。僅かな俳縁だったが私には何故か心ひかれる存在である。例のように角の酒屋で甘酒を買い、今回は碑面の句を控えてきた。

地に置かれた一面には

この樹登らば鬼女となるべし夕紅葉

左側に建っている碑には

夏痩せや嫌ひなものは嫌ひなり

白露や死んでゆく日も帯締めて

口中一顆の雹を啄み火の鳥や

千の虫鳴く一匹の狂ひ鳴き（遺作）

激しい言葉が小気味よい。

2008/2/11 大安

源流へ水無月の雲とさかのぼる
 揚羽蝶ちかづきあや子かも知れず
 通り魔や泰山木の花は焦げ
 一声はふた声に似て夏つばめ
 あやめ見に行くとそれきり神楽坂
 父の日や子供ら誰も来もせず



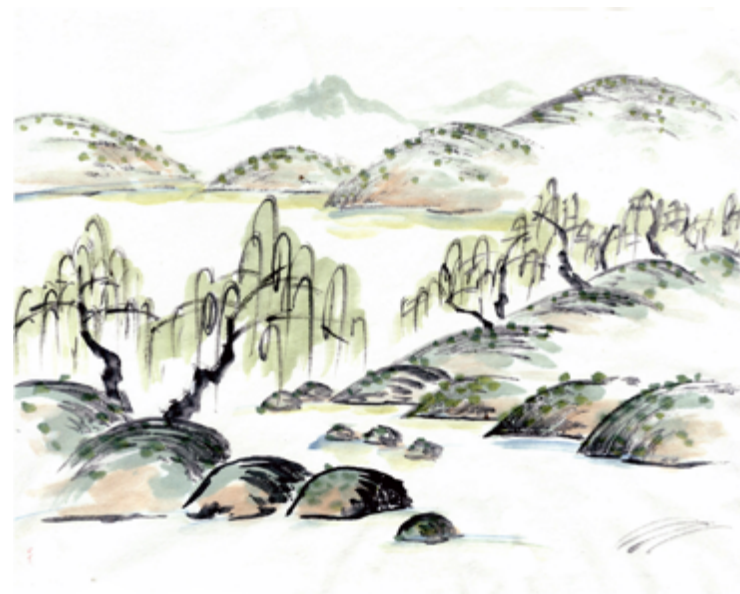
鯉のぼり深呼吸してまた泳ぐ

相模湖正覚寺句碑祭は 45 名で盛会だった。知人が年々少なくなって淋しいが、今井とし江さんが頑張っているのは嬉しい。

庵主、山田咲花老師は闘病中だが百歳健在と聞く。大変な生命力である。初蝶句碑も我々三人句碑も三十年の風雪で苔むし重厚そのものだ。御堂入口左側に書棚があって全国各地の俳誌が一覧できる。『萱』『霽』も並べてある。瀧先生、さぞ心強いことであろう。

さて、毎日新聞の朝刊「季節だより」坪内稔典先生。昨年、12 月から記帳して居るが、未だに瀧先生の句にお目に掛かれない。残念なことである。

2008/5/21 友引



さくら咲く千鳥ヶ淵のちどり足

彼岸会は住職入院のため中止。秋に延期になったが墓参は 3 月 20 日私の誕生日に行ってきた。去年までは亡くなった弟の運転で出来たが、今年は「あずさ」で山梨市へ家内、娘、孫と駅前からタクシーでお寺まで一本道である。鴨井寺橋を渡り故、竹井久雄居を右手に梅は盛りだが桃はまだ咲いていない。お寺の話だが竹井医院、息子が血を見るのが嫌で閉院したそう。残念なことである。墓を洗っているとバツタリ、一宮の甥に会った。十数年振りの邂逅である。いつも葡萄を送ってくれる甥、運悪く妻に先立たれ現在は一人ぼっちと言う。高齢後期、妻も健在であり拙い俳句に感謝の外はない。

2008/5/2 大安

目のなかの汗が泪となりこぼる
夜蟬きく防衛庁を通るとき
氾濫や百日紅があかすぎる
とりあえずコーヒを淹れ終戦日
私にも百歳の夢夏ゆくや
桃を描く手元くるへばりんごにも



闇を訪ひ路地なつかしき盆踊

今井よし江さんから電話で相模湖正覚寺の山田咲花老師の逝去を知らされた。昭和の日句碑祭では病床と聞いていたが残念でならない。老師には初蝶句碑建立をはじめ私たちの三人句碑でも大変お世話になった。しかし、当年百一歳は希有の生命力であり、まさに大往生である。謹んで哀悼の意を捧げ、ご冥福をお祈りする。

さて、例の坪内稔典氏、八月十九日朝刊「季節のたより」に奇しくも

茶髪の男女この夏を攪拌す 三池泉

笑ろうても泣いても故郷盆踊
冷房にきて伸びはじめ午後の髭
兜太とはそれきり会はず赤のまま
七月の火事にぎやかに町のもの
盆踊みな旅人になってゐる
盆唄に一笛ほしき遠山河



固まってゐても言はず濃あぢさゐ

毎日新聞、坪内氏「季節だより」は昨年12月17日から始まった。私の知る石楠の臼田亞浪も大野林火、篠原梵、金子麒麟草等そしてボルガの高島茂の作も出て来ない。

引用される人は何度も名を見せている。芭蕉6・蕪村5・一茶3・子規5……………彼に好き嫌いはあるようだ。

弟の墓が決まり遺族が近くの前町の常泉寺に納骨することになった。偶然にも、うちのお得意様で、それも亡き弟が外交に訪問していた処であるし現在も仕事を頂いている。

住職は私の保護司の先輩、久古教保先生である。納骨の七月二十日は亡父の祥月命日に当る仏縁であろう。

2008/6/25 友引

永眠を告げずに居りし敬老日
雲に入り霧を出て濃し草もみじ
富士九月バス一台の重さかな
人のあつまる夢なつかしや獺祭忌
小鳥来る人の別れのそれとなく
嘆きは雨に台風がそれてゆく
昭和はや彼方になりし秋ふくらむ
鼻白き犬立ち止る小鳥かな
すぐ忘る一句もよけれ秋の水
棺桶に手を掛け金木犀の道
身辺りを白紙で埋づめ十一月
毎年が別れ同窓会の秋



秋風の笑ひどこかに父がゐて

9月に入って二度旅へ、一つは箱根湯本、水明荘。ここで皆川盤水氏の短尺、色紙に出逢った。ホテルの各階通路に掲げてある。何れも吟行句で6ヶ所に灯され、余程この宿にご執心の様だ。帰りがけに支配人らしき人に話すと、話に花が咲く。80名位で来泊したと言う。色紙には

巢立鳥誘ひ啼きして飛び翔ちぬ 皆川盤水

短尺は五本。

帰る雁棹を整えはじめけり
若布刈海女乳房しめらせて戻りけり
桜蕊髪につけきし通ひ湯女
初蝶や丸太打ち込む牧の内
黄水仙艶めきてきし牛の貌

もう一つは『かまつか』の700号記念秋季吟行で、富士吉田の北口本宮、富士浅間神社境内に句碑一基。

登山杖神より我にさずかりし 深川正一郎

であった。ここでは富士五合目まで行き川口湖畔、富士レークホテルに一泊。

2008/9/15 大安

弟の回り灯籠まはりだす
迎へ火や父母の来てゐし風と知る
南無阿弥陀佛提灯を白く吊る
引続き命の軽さ大暑の日
黙って咲く朝顔に水を遣る
盆踊り昔の妻と思ひけり
在郷から一升抱かへ盆踊



盆踊りみな旅人になってゐる

7月号の東京を歩く一田端・大龍寺一を見て昔を思い出した。三十代の頃「みどり」松本翠影主宰と子規と生前親交のあった何人かと、大龍寺へ墓参に行ったことがあった。

墓参を済ませ、庫裡へ通され住職に子規の手紙を見せて貰った。巻紙に毛筆で凄く達筆。あの筆は子規二十代、やはり天才と言える。文面中、汽車のことを「火車」としてあったのが忘れられない。先ずは思い出を引き出して呉れた「東京を歩く」に感謝する。

7月8日に入谷朝顔市へ行くと、サミットで日延べになっていた。出直して19日に朝顔を買ってきた。四色咲き2,000円也。毎日4つ5つ花をつけている。

2008/7/25 友引

新巻鮭の肌さはりこそ懐かしき
愛子さまは七歳厳と冬の朝
梧桐の巨きな枯れを見てゐたり
木枯はこがらしなりに混じりあふ
木守柿離ればなれにいそがぬ村
血を採られ身軽になりしふところ手



十一月遠いものには手をかざし

昨年から今年にかけて、世の風景も私の身辺も良いことなくここに来て私も急変の渦に巻き込まれている。それは、或る俳誌主宰の交代劇が二つ、新旧をめぐるものと主宰逝去によるもの。その飛び火が来て私も或る句会代表になってしまった。でも光栄なことも、新年から私の水仙の絵がK誌の表紙に載ることになった。昔、二枚描いた一枚で外の一枚の方は瀧先生から頂いた一句。

枯園や和敬静寂の石と水 春 一

2008/11/20 友引

明治節昭和は風の中にある
一の酉さびしくなれば歩き出す
別れいくつも十一月のはたたがみ
不景気や昔のやうに蜜柑の灯
自転車一台もなき冬の朝
耳たぶを忘れぬやうに残る虫



灯台やつひ還らざる赤とんぼ

関ただお様から葉書があり、私の百歳の句をほめてくださった。スランプの私には大変嬉しい。東一時代のことが忘れられないとある。関先生に私が、近くから買ってきて着せたことなど、思い出のかけ橋になっているようだ。返事は不要とあるが出さずばなるまい。

数日して近隣町会合同で防災機器操作講習会が新宿区防災センターで開催された。発電機操作のところで担当者が手取り足取り教えてくれた。ふと、担当者の胸を見ると新宿区危機管理課、高島茂、となっている。ボルガのことを話すと知っていると言っていた。同姓同名不思議なめぐり合い。

2008/10/16 友引

悪縁や以心伝心風邪夫婦
一陽来復ついでに買ひし風邪ぐすり
寒雀人のうしろを見て弾む
ここにも筆あそこのも筆冬籠
てのひらの手を絶やさずに餅を搗く
吸殻が二本並んで雪を待つ
遅れ行くもののあはれや春の雪
にんげんに陰日向あり春近づく
人の目の空ろもよけれ春愁ひ
コーヒ―は忘れずに飲む春障子



幾度も息を吸はされ寒半ば

初旅は1月2日から4日まで娘に連れられて蔵王山麓の遠刈田温泉へ、上野から到着駅は白石蔵王駅、あちこちに雪が残っている。宿には入らず、すぐにバスを乗り継ぎ中継点まで約50分、そこは既に雪景色。スノーボード、スキーの姿が見える。そこから雪上車に乗り込む。ただ雪の中道なき道を小さな先導車に従ってガクンガクンと進むが坐り心地の悪いこと。1時間ばかりで到着、樹氷を觀賞することができた。ここは刈田岳と言うらしい。蔵王のシンボル、樹氷は上質で怪物然としている処からモンスターと呼ばれる。そこは30分位で下山、温泉宿へ。何としても老人は出湯に沈むのが一番である。

宿の名は「だいこんの花」部屋はすべて離れ家で窓から木々をリスが上り下りするのが眺められた。何が起こるか解らぬ1年、雪の静寂からの出発である。

2009/1/10 友引

歩かねば枯木になると風の中
雪来るか縫ひ目の糸の蹟けば
出る釘は打たれ寒波の自づから
雪のせて枯木とリスが絵になる旅
雪のお降り何と言つても遠刈田
ジ―パンのひざぬけてゐる寒の入



少年はふたたび泣かず初詣

年々賀状も減ってきた。寄る年波の恨みであろう。切羽詰って今年の干支を拵え、皆さんから頂戴してから書き出す。葉書は新宿西口の書道センターの茶縁の本画仙に決めているが、値段は昨年と同じだった。不景気のせいであろう店主の言うには墨が売れぬと、こぼしていた。丑年だから牛の置物、土鈴など探し歩いたが気に入らぬ。テキストから牛を抜き出し、添え書は原直子さんの昔の賀状を参考に形にした。一年牛歩より無事息災を念じつつ

2009/1/7 大安

今も別れははくれんの開くとき
靖国の桜にいつもどきどきす
よく笑ふ妻をかなしみ桜ちる
五十年前のむすめや遅ざくら
鳥の羽帽子につけて風ひかる
一郎ふたり笑ふも泣くも花万朶
三月十日ビールの泡にしてしまふ
尼さま頭のひやかに風光る
人妻の一と痩せしたる春の月
またの日のおほかたはなき桜かな



ランドセル背よりはみだし桜咲く

3月21日、靖国神社の桜が咲いた。暇でこぼしていたが我が業界も一斉に活気が出てきたようである。人は季節に左右され易く俳句も同じようだ。東一以後、すっかり『萱』に足が重くなり残念でならない。

10年前なら何が何でも出掛けたものだが、すっかりご無沙汰して仕舞った。それでも「風萱集」を見させて頂けるので大変勉強になる。私には試験であり毎月の試験問題に苦しんでいるが感謝の外はない。永田耕衣氏の二句勘弁など拾い読みして答えを出すこともあるが的外れは不勉強のせい、何とぞご勘弁のほど。

2009/3/12 大安

春浅し帽子美人と言はれけり
鬼遣ひまた温めて笙の笛
楽屋より一番太鼓地虫出づ
ばらばらな顔あつまりて梅ひらく
戸締りは突支ひ棒で梅の花
携帯電話もたぬが良けれ春大根
浦霞越乃寒梅二月尽



裏おもてないセーターで歩きだす

百年の不況と言うが、わが零細業も影響を受けている。良い時の2分の1になってしまった。私が生まれた大正15年も大不況とあるが、少年時代の生活とくらべると今は恵まれている。若し今年も駄目だったら消費税不払業者の手続きを取ることになる。それにつけても町会長だから新年会の多かったこと、同じ顔ぶれで何度も乾杯をした。親睦とは言うものの結局町会費の無駄遣い。行政の面々は親方日の丸安泰然としているが、2月14日坪内稔典氏の季節だよりに

鞆鞭は漕ぐべし愛は奪ふべし 三橋鷹女

が日の目を見た。せめてもの救いである。

2009/2/20 友引

母の日の花束忘れられし人
チューリップ白し母の日の母なき子
梅雨ねむし齡に不足のない夫婦
マスクして他人行儀の柏餅
過去帳に戒名無き日春ゆくや
町のふところ泰山木の花を待つ



寺の縁切るかきらぬか躑躅緋に

フアックスも良し悪しで毎朝9時前後にパソコンの宣伝が入る。ボタンを押して、それが解ると消す。少ししてまた、すぐストップ、毎日だから閉口している。

ある日も出版社から私の1句を書面に句文集を勧めてきた。半頁1句3,800円。も一つは広告社で、あなたのホームページが好評だから新聞に掲載したいと言う。これも幾ら掛るのと、聞くと24万円也。真に受けて感激して参加する人も多いことだろう。居留守を遣っていたら、その後何にも言ってこない。皆様も慎重に。

2009/5/2 大安

思ひ桜忘れざくらと道つづく
無尽蔵とや椿落つつぎつぎに
見をさめと思ひ思はず花がすみ
手を打つたび花はひらき花は散り
哲学は難しからず花見酒
花ありて尺八の鳴るひところ
俳句馬鹿桜吹雪に眠れり



卒業式大声で田螺泣く

3月29日『あを』の佐藤喜孝氏に誘われて哲学堂へ。花もほころび園内は花見客で溢れていた。あちこちに難しい碑が立ち並び哲学堂らしい固さである。哲理門から始まり四聖門、意識駅、理外門、主観亭、理想橋、概念橋、唯心庭、倫理淵、等々きりもなく厳めしい。

ここで何年振りで八田木枯先生に出会えたのは嬉しかった。桜より辛夷の花に見入っていた事、ベンチに座って集中している姿は、往時の高島茂氏を思い出していた。句会では勿論杯を重ねた。俳句も衰えなし、思い出の日になった。4月5日、町内婦人部で新宿御苑へ花見に。私は後から覗きに出掛けたが苑内はで満員どこに座っているのやら。千駄ヶ谷門の方まで一巡したが見当たらず諦めて帰りがけに帰路大木戸門近い一たむろで偶然、彼女らを見つけた。挨拶にハーモニカをひと吹き（故郷）さよならした。たのしく忙しき一日。

2009/4/16 大安

白河夜船支へて華奢な梅雨の傘
多数決できめないで置く梅雨の果
いつのまに裏返りゐて夏布団
現し世の出会い頭らや大夕立
朝顔市迷ひ求めし鉢ひとつ
とって置きの話齒に沁む搔き氷



忘れゐし鴨井寺橋遠郭公

7月5日は父の33回忌。山梨で法事を済ませて山梨市駅から息子の先導で韮崎へ。駅前からタクシーで息子の建てたと言う韮崎大村美術館へ。詳細は聞かなかったが、そこの先生の生家も近くに見える。その縁で脇に蕎麦屋と白山温泉が出来て美術館も客足が増えたそう。生憎の梅雨で3階から八ヶ岳は見えなかったが展示室でバーナードリーチ先生の大皿にお目に掛かることが出来たのは幸いであった。まさに益子焼そのものの懐かしさ。

さて、都議会選挙は予想通りの結果に終わった。麻生首相、与謝野大臣も若松町まで応援に駆けつけたが、二人ではどちらかが落ちる運命にある、結局古参が泣きを見た。

2009/7/5 大安

びわ狩りは三個の決まり千葉そだち
びわを摘む真砂女の海を背にしつつ
清澄寺もりあをがへる鳴きしきる
父の日は第三と言ふ隠れんぼ
父の日の誤算齒痛の妻がゐて



高尾山の夢老鶯も少年期

「風萱集」を終わりホットした。試験を経た開放感である。虎童子先生の作品が解かれれば案外楽にスタート出来る。それまでが中々決まらない。みな強かだからスナリ読めるのは出来るだけ避け難題にぶつかったつもりだが自分の弱さを知っているから「吾に七難八苦を与えよ」の変なやせ我慢である。来し方の妄言集何卒お許しくださいよ。

7月は弟の3回忌、親父の33回忌。8月7、8、9日の3日間、町の祭礼が来る。娘から父の日としてビールが届いた。

疎かになった自分に発破をかけたい。

2009/6/20 友引

箱根山ありて動かず秋の雲
ラーメンのあとの快通さるすべり
夏痩せや一直線に手術あと
鈴虫や耳とほければ目をつむり
揚玉は叩くものなり暑氣払



灯にも見え星にも見えて夜の秋

自民大敗退により、選挙は自民党から民主党へ傾いた。地元の与謝野議員は幸いにも比例で残りよかったと思っている。これからどうなるであろうか不安というか、心配ではある。その選挙戦最中の町の祭礼行事は以外にも、みんなの熱意で、奉納金も順調に集まり無事に納める事が出来た。今回の政権のように、町のメンバー交代は着々と進んでいる。

9月に入って急に涼しくなってきた。新型インフルエンザも流行中、町内も敬老の日の行事、秋の全国安全運動と忙しくなってきた。知人の訃報が二つ、さびしい限り。それでも、8月19日以来咲かなかった朝顔が、9月10日に小振りながら紫の一輪をつけた。慰めと言うべし。

2009/9/11 大安

七月の墓六人で忌を修す
朝夕の水を掴みて母の夏
大正ロマン吾が耳鳴りも蟬しぐれ
手をつたふ水は逃さず金魚売
夏みかん剥くと目つむり阿修羅像
百日紅あかいものから蓋をする
日焼けせずことさら罪の深き人



一連の子等いたいけに阿波踊り

7月25日は忙しき日。神楽坂の阿波踊りへ午後6時に昨夜に続き、今日は近くの津久戸、愛日小学校、幼稚園等の子供たちが出番でそれぞれの半纏を着て賑やかにやってくる。よく教え込んだものと思う。歩道脇に観客が、いっぱい商店も飲物食べものを並べて通り客に声をかけている。踊り風景を30分くらい眺めて、また大江戸線で都庁前まで、すぐ京王プラザへ衆議院選挙へ向けてのY大臣の緊急集会へ、Y大臣の講演が終わった時点で町へ引き返し業界の常会に出席。半ば呑み会だが、業界の報告浸み抜き技術薬品の効用など参考になった。

2009/7/20 友引

古書店に吾が句集あり鰯雲
 一郎の齒に沁みとほる秋の酒
 目つむるや鼾も生まれ渡り鳥
 秋の風時計のねぢに引っかかり
 眠るだけ寝て秋風になってゐる
 あさがほの最後のさいご濃紫
 百歳死かなしむべきか吾亦紅
 甘いものあまいと言へず桐一葉
 夢の中に吾を見しとや冬近き



石に名を刻む日の来る秋の水

10月4日地元の若松地域センターでタイムカプセル開封式が行われた。黒いトランクが二個、一つには当時小学生の近辺の風景画と大人のスケッチ帳が管理運営委員会野尻信江氏より紹介され、もう一つのトランクから俳句の短尺が二枚読み上げられた。

国立病院どこからも見え夏つばめ 尹 子
 若松町の昔初富士見えて来し 一 郎

あとの分も同センターに展示されている。

雪富士をを仰ぎバス待つ若松町 尹 子
 若松町抜け水野ヶ原や青芒 律 子
 この街に青峰在りし額の花 一 郎

はからずも村上末子様、細江みちよ様と旧交を温めることが出来た。嬉しい一日。
 2009/10/16 大安

白萩に呼びとめられし一步かな
 種なし葡萄秋風の方を向く
 子供手当老人手当秋の声
 笑顔にて別れし夢も明け易し
 仕舞ひ忘れしスケッチブック夏の果
 曼珠沙華帰り仕度をしてをりぬ



黒を着て通る九月の乳母車

敬老の日は9月15日と思っていたのに、今年は9月21日。実は今日から秋の交通安全運動週間の始まりで9月30日まで続く、私の処で黄色い帽子・タスキ・小旗を預かり、朝8時半に来る町会の整理員二名に手渡す。場所はいつも大江戸線若松河田駅前、時間は9時半まで1時間、昔はボランティアだったが今は千円、手当てを出している。げんきんなもので皆喜んでいる。

さて、このシルバーウィークは店も連休で私、留守番をしている。と言うのはお客から電話もあり、案外訃報もあるので。他誌原稿も一つあり中々手がかからない。元来愚昧、戸惑いと曖昧さで一日一日難儀している。家内と娘は矢吹の別宅へ、良いご身分。

2009/9/19 友引

目が悪くなれば耳まで花八つ手
うしろ指差されてをりし温め酒
けじめまで散らかしておく十二月
十二月何かぶつぶつ通りけり
おのづから枯園に入る齢かな
マスクから誰か笑へり白き町



落葉の章一茶良寛語り合ふ

亀田代表から、代表を代りたい旨電話をいただいた。時期としては、現状が良いのだが、止むに止まれぬ事情であり同意した。平成 22 年は、運勢的にも八白中宮改革の年であり、本年の漢字に「新」が発表された。多難な年だったが、新たな出発を意味する。『かまつか』も、21 年 1 月以降、加藤三陽氏より行川行人氏にバトンタッチした。金子麒麟草主宰から数えて五代目に当たる。

スムーズな移行が廃刊を免れたのである。交代時には、臼田亜浪一句染付の黒羽織が代々受け継がれている。

2009/11/15 先勝

ゆく道は帰るみち石路黄色
練馬から奥は田舎や柿豊年
界限に石路咲きをんな盛り過ぐ
信号は赤黄落へ手をかざす
毎日の遊びに馴れて鴨の水
しかるべく深川めしへ赤とんぼ



あいさつは翹閉ぢひらき秋の蝶

句会に出られぬのは残念至極、すっかり遅れをとってしまった。先日、高島さんの『獐』を初めて手にしたが、190 号高島征夫追悼特集になっているので驚いた。木村嘉男氏の「先師の一句」に追悼の意を述べている。享年 65 歳、残念なことである。私は疎遠であったが、往時をしのび誌上をお借りして謹んで御悔み申し上げる。いよいよ、「ぼるが」が遠くってしまった。アルコールが弱くなった現在では、もう資格はないが木村嘉男氏とでも、一杯やりたい思いはちょっぴりある。

来年は寅年、年男。二黒土星は良で鬼門、暗剣殺に入る。大事な年に。

2009/10/31 仏滅

枯れわたり誰にも二日足りない月
 旅好きの妻と娘に枯木立
 木枯や男八十ひざまづく
 拾ふ人捨てるひとりあり水温む
 四谷から歩いて帰る春の風邪
 鯛焼が食べたくなって春の雪



空っぽの町にたっぷり梅白き

佐久間純子、小島良子氏より今村映水様逝去の連絡を受け驚いた。最近までよくお書きになっていたのに。残念でならない。謹んでお悔み申し上げます。最後まで東一句会で無くてはならぬ方だった。私も個人的にも子供達が大変ご厄介を掛けた。殊に長男が喘息で何度も今村先生の診察を受けたものだ。大切な先生であった。子供たちが成長し独立して現在生活していることも感謝の外はない。告別式に参列し柩にお花を入れお別れした。お顔に生前の面影はなく悲しみを深くした。関ただお客様の弔電を耳に更に昔の思い出に浸る。

2010/3/30 赤口

まぶしくて通れぬこれぞ恵方道
 坂の上から初富士を見し記憶
 七十三年経し母の忌の雪催
 元日の靴新しき少年期
 初旅は金沢辺りどっこいしょ
 老いくらべ泣き顔に似て初笑ひ



雪をんな白きマスクをして来る

前にも幾度か触れたが、毎日新聞朝刊に掲載の「季節のたより」坪内稔典氏の一句を平成19年12月17日から書き込んでいる、まる2年になるが、まだ瀧先生は出て来ない。かつての仲間の三池泉の3回は異例だったが、この頃のものとは全く面白くない。

コンビニのおでんが好きで星きれい	神野紗希
熱燗や男が先にごめんなさい	小西雅子
雪雪雪雪雪ねむくなる薬	北村美都子
雪はふーわふわ弟はハーハー	西田有希

稔典氏は女性好みのようなだが、俳句も世の末の感がする。一般の人にこれを俳句とは思われたくない。そのうち、瀧先生が現れれば、許してあげる。

2009/12/22 大安

兎追ひしいまは鳩追ひ春の雲
長寿眉と言はれその気に万愚節
ちる桜手を結ぶこと結ばぬ子
丹の橋をまあるく渡り花の雨
さまよひて著莪白さになってゆく
虹色の少女の夢に木々芽吹く



裏と思へば表でありし遅さくら

地元、明治神宮崇敬会の仲間と、4月18日新宿からバスで福島へ日帰りの旅に、家内、娘の3人。目当ては吾妻スカイライン。宇都宮辺りから雪が残り、那須は真っ白だった。途中、疎開地の矢吹から郡山の空爆時のことなどを思い出しながら、バスは急斜面の雪道をあえぎつつ浄土平到着。身近に仰いだ雪の吾妻小富士は絶景そのものだった。さて、寒風に別れを告げ下山、福島市内の花見山公園へ。ここは個人の庭内で桜、連翹等々満開であった。

ここは、大型バス数十台が駐車、観光名所になっている。帰路バスの中に『春耕』の人がいて風聞では皆川盤水主宰が弱つているようだがと尋ねると、大分良くなって近くの句会へ車椅子で出席しているとか、安心した。見事な雪景色と桜を雲の中へ刺激の旅は終わった。

2010/5/10 大安

春の雲うしろ姿を見て止まる
春の雲浮く行くときは眠るとき
マスクしてわるをわるとも思はずに
歩みきてその他大勢春の水
水平に終了証書山笑ふ
ちる桜手を結ぶ子と結ばぬ子



西行は花時選び吾もまた

3月は忙しい月、近くの小学校幼稚園の卒業卒園式に出席する。地域で戸山町の第1回箱根山駅伝大会が行なわれることになった。私の町会でも5人選手を送り出した。どうなることやら。とに角お天気であって欲しい。3月10日は新聞テレビ報道だけで東京大空襲は世から忘れられた感じである。さて、3月20日は私の誕生日、例のサリン事件でお流れになってしまった。

多少引っ掛かるが今年も感謝で迎えよう。

2010/4/12 大安

ゆく春やまた繰りかへす嘆き唄

子供の日忘れられたる燭ひとつ

二度とないひと日あるべしつつじ緋に

同じみち通るのは嫌猫の恋

美濃紙の薄さで翔てり夏の蝶



ゴールデンウィーク故郷とはハーモニカ

5月連休は2日～5日まで、福島茅屋へ、私の染井吉野も余花の情、それでも目を楽しませて呉れた。裏山で鶯が鳴く。ここは「ホーホケキョ」と「ホ」をつなげて訛りがあり聞き惚れていた。休みのうちに『萱』の原稿をモノにしようと俳誌を持参したが、全くその気になれず何するでなく只ぼんやり。2日間は町営の温泉へ、昼食は近くのレストランで食べたり飲んだり、無為に過ごしてしまった。休み明けは急に仕事が忙しくなってきた。天候不順のしわ寄せである。80才を過ぎてアイロンの腰を押している。因果なこと。

2010/6/11 友引

しばらくはいつまでのこと百日紅

告白は薔薇の真つ赤な日でありし

更衣消防団は紺色に

枇杷は実にいつもの坂をかがやかす

晩夏光写真の顔に見つめられ

青葉若葉無色の風を袂にす



衣更へて市井の妻になりきれず

『現代俳句』4月号を見ると最後のページに入会申込書がついている。現在では会費を支払えば入会出来るらしい。①入会金(1万円)、②年会費(1万円)、昔はこう簡単ではなかった。

『暖流』の票の行方はすでに満杯で、私は諸先輩の力を借りて推薦状全国現代俳句協会員500名の方々に出し、瀧主宰ほか高嶋茂氏にもお願いしたものだ。その効あって昭和46年の会員選挙で入会することが出来た。青木啓泰氏、藤田湘子氏も一緒の入会だった。中でも高柳重信氏の一票は忘れられぬ思い出である。

2010/7/14 友引

人と賭てけあぢさゐと解く七変化
珈琲を濃くし甘くし暑に応ふ
提燈の揺れ納まらず祭りあと
後ろ手の国に今年も終戦日
蟬しぐれ通り過ぎると裏声に



線香花火むかしの闇はむらさきに

わがクリーニング業界も廃業がつづき底を突いたようだ。牛込、四谷支部を合同、新宿東支部としたのは今では良かったと思っている。9月の始めに恒例の懇親旅行を開催、17名の淋しさ、それでも飲は尽くしたようだ。部屋の廊下に短尺が一枚掛けてある。「かじか鳴く出で湯の宿の露天風呂」「かじか」は宿が河鹿荘故と思うが、中七下五面白からず。一泊して帰路、ロマンスカーを待つ間湯本駅前の饅頭店の二階で心太を一杯。この部屋に大色紙が掛けてあり書家らしく中々の名筆。

京の間でゆの花一期の茶

湯に柚を掛けた味は大いに目出度し。その左に紅い色紙が一枚。

風筋に饅頭の湯気花の冷 盤 水

ここで、皆川盤水先生に、お会いできるとは旅の幸。

2010/9/16 友引

ふるさとの無い噴水が上下する
紫陽花をめぐる色香にとほければ
藤房をとほりぬけたる軽ろさかな
梅雨つづく売れて水玉アンブレラ
舞ひ下りて五月蠅いと言ふこともなし
百歳の夏祝ぐべしやさびしくも



墓みてゐるやうでみてゐたり

わが町の市谷亀岡八幡宮祭礼も無時終つた。8月6日～8月8日の3日間で、6日はお神酒所での神輿入魂式。8日は町内の月桂寺門前に集合、午後1時に出発。山車を先頭に子供神輿と町内を賑やかに巡行。子供は約60名全体で130名の長い行列になった。天候にも恵まれ猛暑に備え、冷たいものを用意したり役員の配慮怠りなし。お母さん達が周りから吾子を声援している姿は微笑ましい風景である。この親子の呼応が人間愛の原点であると思う。殊に最近親子関係の面白からぬニュースが流れる中で、斯くあるべしとつくづく感じる。今日は8月15日終戦の日、反省を籠めて鉢洗いを行ふ。さて、今回、韓国料理の町会員から近くの役員が「神とは何か」と聞かれたそう。さて、神とは。

2010/8/14 大安

返事して鼻すじ通す秋の暮
秋晴やノーベル賞を奉る
すべって転んで秋風が石になる
身のこなし或いは四方にをとこへし
運動会黄色い声とにぎり飯
高きへ登る征服感を信じつつ



ここまでの自分でありし温め酒

尖閣諸島、国後島は昔から因縁とされるが、この処の尖閣ビデオ映像の流出は国家代表として、菅首相、仙石官房長官を悩ませている。「弱り目に祟り目」加えて、解決済みと思われていた領土問題が再燃、その隙を衝いて中国、ロシアの悍しさ、結局は「負けれず賊軍」Sengoku.38 とゲーム感覚、正義感旺盛な人達。私の良く唄う相撲甚句に「千石積んだる船でさえ港出や時きやまともでも波風荒きやー出て戻る」とある。落ち着いた世になって欲しいものだ。

2010/11/16 友引

タワー背を競い花火が嘲笑ふ
割り算掛け算わすれぬやうに敬老会
人恋ひの素振りはんなり秋扇
須く友とは会はず九月尽
曼珠沙華見ごろ晴れたり曇ったり
いろいろな風秋の夜のくすり指



目の中に指を入れたる暑さかな

9月、10月と忙しい日が続いている。全国秋の交通安全運動、私も朝、街頭で旗を振った。並行して新宿区防災避難訓練を余丁町、若松町、河田町合同で余丁町小学校で避難所開設として庶務、情報部、物資供給部、救護衛生部に分けて種々の作業が消防署、新宿区職員の指導のもとに行われた。濾水装置、バーナー操作、仮設トイレ、消化訓練アルファーマの炊き出し、など町会毎に分れて、作業に手を出しながら各所を見学して歩いた。例により職員の中に、同名の高嶋茂氏の姿もあった。加えて本年は国勢調査もあり私も、二地区を担当、約120世帯を受け持った。マンション・アパートが多く、対面が難しかったが今回はパソコンと青い封筒による投函でスムーズに回収提出を終えた。町会の餅搗き大会も決まった。勤労感謝の日。私達の55回結婚記念日

2010/10/13 友引

訃報には百歳とあり年送る
ふとってビール冬をさむしと思はずに
シクラメンひとの情けを知りつくす
時雨とは顔をまともに責めるもの
ほのぼのと風花美人口ひらく
突き当りが湖白鳥を抱きにゆく



懐手して龍馬にはなりきれず

北海道の土地を中国が買い込んでいると言う。わが町でも韓国文字が、あちこちに目立つようになってきた。近くに韓国学校あるし、そのせいで住みつくようになったと思う。昔は商店会も盛んで盆暮れの大売出しなど賑やかだったものだ。60年経って世代が移り町もすっかり変わってしまった。韓国の食堂、事務所、学習塾、ブティック。先日もセブンイレブンが立ち退き韓国のコンビニが賑っている。この人たちも町会員になってくれたが、町会員の減少は続く、従って出費を抑えての運営に。マンション、アパートの新築入居もあるが、町会への入会協力は思うようにはかどらない。今の若い人達は旅行者なのである。フジテレビの盛んだった頃がなかった。

2011/1/12 友引

句なべて世迷ひごととて初時雨
十二月八日戦争はなつかしく
蛍光灯てっぼう担ぎ年の暮
からだ中あやふきまゝに寒玉子
ほそ道に入れ替るすべ鴨の水



一瞬にしては母になる寒さかな

私には最悪の年とされていた寅鬼門も、それなりに慎重に過ごしてきたが、ここへ来て身体に現れ始めた。例により東一の整形外科、それから町の整骨院へマッサージに。電気治療は初体験。さて、国会軽視発言で、まだ混乱つづくが、俳句でも嗜んで居ればの感がする。「物いえば唇寒し秋の風」である。この所、地域での行事反省会、忘年会が山積、町の代表だから仕方ない。11月に入って年賀遠慮の挨拶がくる。その中で高木童子氏『かまつか』、山口正三氏『暖流』の永眠を知らされた。新年卯年七赤中宮。私にとって、いや『萱』 亀田虎童子様。『滞』 藤田宏様。両先輩リズムは好調な年に恵まれる。

2010/12/15 友引

春の雪斜めなめに線をひく
いうまでも眼裏が焦げ三月忌
春惨景テレビ画面のしたたかに
戦時かな買ひ占められて春の水
卒業や力を籠めて少女泣く



東京の雪ふるさとへ電話する

『萱』3月号、木村嘉男代表の編集後記の「去年からの極端な天候異変は少々不気味である。異常が異常でなくなるような気がする」は的中した。3月11日、東北関東大震災発生。最初は左程気に掛けなかったが、徐々に激しく我が家の食器類もいくつかお釈迦に、長押の額も落ちたり外れたり。町内でも被害者が出て近くの小学校へ避難させた。福島茅屋の壁が落ち、旧街道の旧家は倒壊、寺の墓は全て倒れているとか、親戚は無事だが福島原発のせいで皆家に籠っているそう。今朝の新聞を見ると新宿でも西方へ避難先を考える人があるようだ。私の処は、お客の品物を沢山預けているので離れられない。早く治まって欲しい。

2011/3/16 先勝

爪に灯をともして今日の蜜柑むく
呟いてこそ明日があり梅の花
女であり男でありし寒の水
東京に雪を降らしめ無帽なり
それとなくお妾横丁春の雪
鬼の豆畳にはづむことをする



来し方を飛び石として冬深く

身边で訃報がつづく、毎年のことだが人間は季節に左右される。暑さ寒さに敏感で殊に高齢者に押し寄せてくる。大自然の循環作用運命周期等を合わせて天命を締めともしする。

前に何処かで触れたが、葬儀社の店主が桜が咲き出すと、葬儀も暇になると語っていた。この度の斉藤嘉久氏の逝去は誠に残念でならない。これも天寿天命であろうか。

死ぬことも受け継ぐことよ日短 小島一舟

死は先輩故人からバトンを受け継ぐことかも知れない。

作者一舟氏は高島茂、直井烏生両氏に師事したボルガ派の一人で俳誌『かまつか』で活躍中。

2011/2/16 友引

目裏に散りゆく桜かさねきし
おほかたは墓に眠りて五月来る
紫陽花の見様みまねで生きてきし
一と雨くるジャスミンの香を流し
春愁や一時帰宅のバスの窓
コーヒーを淹れてひとりの子供の日



バラの花束数多の棘を知りつくし

5月号で福島県中通り矢吹町茅屋の被害を告げたが、はじめて毎日新聞に矢吹町倒壊現場の写真が掲載された。〔古代湖〕被害突出の見出しで10万年前、福島県中部の内陸に在ったされる古代の湖「郡山湖」の内側で特に家屋倒壊などの被害が大きかったことを同県、玉川村出身で東大大学院生の小林達也氏の調査でわかった。この、古代湖は郡山市から須賀川市、鏡石町、矢吹町まで南北広がっていた巨大な湖で、あの猪苗代湖の三倍以上と言われる。そう言えば矢吹に現在も大池、小池、柳池など残っている。この大地震により10万年前の古代湖が深い眠りから目を覚ました。

奥の細道の旅で芭蕉は白河から矢吹を訪れ、この街道を通ったが芭蕉翁は知る由もない。

2011/5/16 大安

非常時と言ふて拙し春の水
被災地の美談を拾ふ春にはか
なつかしき自分でありし暮の春
大をんな通り過ぎたる落花かな
薔薇の門うすれぬものに師弟愛



麗らかや別れの歌を口ずさむ

福島の我が家も、この度の震災で大きな被害をうけた。隣に住む身内から写真が送られてきて、道路のひび割れと外装と部屋の中の様子が解った。表のベランダの土台石が外れもう少しで、屋根が落ちそうだ。部屋は壁が剥れ畳に被さっている。衣類も押入れから、放り出され見る影もない。

その後も余震が続くが、交通もやっと復旧したので近々行くつもりだ。大工を頼んで修理しなければなるまい。私の町会は今年、創立六十周年を迎え記念行事を予定して居たが理事会で自粛と決め、その費用の中から東日本大震災の義援金として、殊に激しかった三県（岩手、宮城、福島）各地へ計五十万円也を送った。

俳句年鑑で、幸手の金子充氏の逝去を知る。桜もさぞかし、懐しい思い出が駆けめぐる。

2011/4/14 友引

ものなべて薄味がよし冷奴
女医ににしてをとこ姿や夏の蝶
繰言は病のひとつ半夏生
扇子の一句師の面影を開くべく
朝焼や逃がれし来し道かへりみる
風鈴や戸毎にちがふ風の音
花の名を思ひ出す日や雲の峰
ガラス風鈴此岸彼岸と通ひあふ



塩少し水たっぷりと魂迎へ

この処、勘違いが多くなってきた。勿論年のせい、僅かな残り時間ではあるが懸命に歩いて行くつもりである。俳句があると、ホッとしたり緊張の連続である。それが刺激にもなるが、一喜一憂世の動静にも似ている。

私事になるが、ゆくさき暗いのは道路拡幅で5、6年内には現在地を離れねばならない。しかし、それまでは無理かとも思い。何の手立てもしていない。のこる者に任せるほかはない。

先日、外科の担当医から貧血気味と聞かされ、再検査が8月から始まる。今回、句集で良い思いをさせて頂いたのも束の間のこと。さて、長年楽しませてくれたテレビのアナログ放送も明日、正午で画面から消える。今日は弟の祥月命日。

2011/7/23 仏滅

あっけなく相撲が終り団扇風
台風一過呑み友達を失へり
贈り人世になき扇子二三本
父の日と言ふ十字架をまた背負ふ
年を聞かれる自分が嫌に梅雨深し
父の日を来て埼玉の蚊に刺さされ



枝豆や地球の上に夜が来て
限られてきし甚平の似合う齡
生き死にを言はず語らず敬老日
訃報なき町が何より夏送る
仲秋名月ひとりで煮炊きしてをりし
百日紅百日過ぎて泣き止まず
弟が帰って来ない秋の月
秋の雲父母ながされて家なき子



その上の疎開空襲福島忌

ねばり強く頑張ってきた、菅総理から野田新総理へ、「どじょう」から一転、正心誠意の決意は十分伝わった様だ。しかし行方は多難に思われる。さて、9月4・5日と地域の町会連合会の諸氏と一泊で福島県芦ノ牧温泉へ、折りしも「のろのろ台風」北上中でバスからの利根川も鬼怒川も濁流に化していた。バス車中は地域所長から脳卒中予防の講義があり、お酒、タバコの飲み過ぎの注意である。バスは会津田島から「塔のへつり」を経て大内宿を見学しホテルへ。ここはその昔、『暖流』夏期鍛錬会でお馴染みの地であり思い出が込み上げてきた。

翌日は会津若松の鶴ヶ城から飯盛山へ、ここでは売店の姐さんが少年隊墓碑の前で白虎隊を土塗れで踊ってくれた。即、一同お土産を買うことに。被災地福島県復興の旅。

2011/9/22 友引

原爆日国民服を着てゐたり
黒揚羽手に手をとって帰りけり
遠回りして人を待つ百日紅
持て余す主婦の霍乱カレーライス
旅人は芭蕉でありし雲の峰
八月の箱を二つに分けてゆく
ゆづられし後ろめたさに坐す晩夏
あっけなく相撲が終り団扇風
台風一過呑み友達を失へり
贈り人世になき扇子二三本
父の日と言ふ十字架をまた背負ふ
年を聞かれる自分が嫌に梅雨深し
父の日を来て埼玉の蚊に刺さされ



土用波ときをり母の声ありぬ

総会など会合で黙祷を捧げて来たが、最近遠のいた感じである。災害地の復興を祈って止まない。東日本大震災以後の近隣町会は祭礼を自粛し商店街のある処は盆踊りだけ行うようだ。しかし、隣の若松町など穴八幡9月の祭礼は本祭りとして行う。わが町会、市谷八幡は中止とした。さて、句会から離れて何年にもなる。参加すべきと思いつつ、自由に吟行で来た頃が懐かしい。85歳現役であるのも不運だし、晩年安泰の運勢通りには行かなかった。今回、バトンタッチで風萱集の任も終わり新鋭の筆になる。

2011/8/16 大安

年寄りには茸が好きで早寝する
霧はれて紅葉おどろく人おどろく
十分に父の後ろに秋今年
天才は早死にらしく文化の日
ゴミ箱へごそつと捨てる秋の風
風船かづら人の行きを愉しめり
涙して天の川から下りてきし



年鑑は句のしかばねか秋ともし

俳句の静けさを取り戻したいが、ままならぬ日々が続く。兎に角、身体に余裕が欲しい。

地域の行事も、この所目白押しで出番が続く。先日俳句仲間の『あを』の石森和子さんから、何時か吹いたのが気に入ったらしく声が掛かって11月5日に石森さんのCafe 傳（中野区上高田）で小生のハーモニカを吹く会を開いてくれる。私を励ます会かも。容易く返事はしたもの、何としても素人芸。秋冬の童謡を中心に自在流で行くつもり。

毎日、吹き易いように数字譜を書き直している。最後に高野辰之作「故郷」で締めくくる。聴かせたい曲、吹ける曲吹きたい曲と、一致しないのが難しい処。思うように行かぬは俳句と同じである。

2011/11/3 友引

納豆は大粒嫌ひ秋気満つ
ほうたう秋父の語りし山津波
集合写真に載らない私秋の雲
秋天無帽罪深ければ髪白き
夢は無限ストローで吸ふ文化の日



十月桜人はおほかた薄情に

悪いことは続くものだ。福島の家が家の被害はアンテナが落ちたが部屋は壁が剥がれ程度で済んだ。

東京を襲った9月21日のあの台風で当店の日除テントが鉄板からむしりとられ歩道に落下した。たまたま通行人が無かったのが幸いであった。開店60年以来始めてのことである。早速工事をして新たにした。

それでも、世の中満更でもなく喜びが3つ続いて来た。9月25日に孫の結婚披露宴を明治記念館で内輪に。次は現代俳句協会から10月1日付けで永年在籍記念として感謝状を頂戴した。

もう一つは来年の事だが、副会長と町会長を通じて15年勤めたので、3月に新宿区65年記念式典で区功労者として表彰される予定である。

2011/10/14 友引

落葉風左旋回国病める
虚しさを笑って見せる寒さかな
シクラメン一人ぼっちになって呑む
セーターの上にセーター亜老年
ズボン穿く腹引つ込めて冬に入る
そこにも母あそこにも母年の暮
年賀ゆく服喪家にこだわらず



蛍光灯を鉄砲担ぎ十二月

町は静かな師走風景にある。近くの蕎麦屋に年越しそばの出前を頼むと「手が無いので」断られたが前金を置くと承知して呉れた。アルバイトを雇う余裕が無いのであろう。仲間に会って「暇だねエー」が合言葉に。それにしても今日大晦日が帰省海外旅行への最高ラッシュになると言う。衆のようにに3月11日、東日本大震災から海外に種々トラブルが発生、大変な一年であった。毎日新聞の朝刊、余録の「カルタ」の「き」(虚勢 大国新将軍様)が締めくくりで最後「京」(京の夢 絆を世界に)が、せめてもの救いであり期待である。

12月27日に大締め句会で佐藤喜孝氏を介して八田木枯氏の染筆を頂いた。

ハモニカの少年に秋いくそたび 木 枯

有り難し。少年は、また一步を踏み出す。

2011/12/31 大晦日

明治節道は六百八十里
躓くも此処まで紅葉してゐたり
これから先のこと白菜を漬けてゐる
足腰の见えて山茶花こぼれつぐ
カナリアは歌を忘れて白いマスク
冬紅葉耳を澄ませば水の音
ベレー帽被りなほして銀杏黄葉



銀杏黄葉もっとも眩し天皇病む

『萱』11月号の萱集一句鑑賞に飯塚タケ子様の柏瀬ヒサ様の「三斗小屋」の作に出会い嬉しくなった。ふと60年前の思い出が。日本画家武井石艸氏と一緒にだった。黒磯駅から那須茶臼岳山頂までタクシーで500円。山頂から右手に雪の朝日岳が輝いていた。三斗小屋へは下りだが、それは険しい山路である。でも崖に石楠花が張り着くように咲いていっているとホットしたものだ。昔からの旅籠で大黒屋と煙草屋の2軒、私達も煙草屋へ、川沿いを降りて行くと鄙びた湯舟に満開の石楠花が一枝、浸してあり印象的だった。やはり女の子がいて親御様に聞くと小学校は黒磯の身内に預けて通わせると言う。山並や石楠花を写生して2泊、俳句も作った筈だが。帰路は旧街道を板室温泉へ途中に大きな石が一つ確か夜泣石。三斗小屋の思い出に感謝申し上げる。

2011/11/12 大安

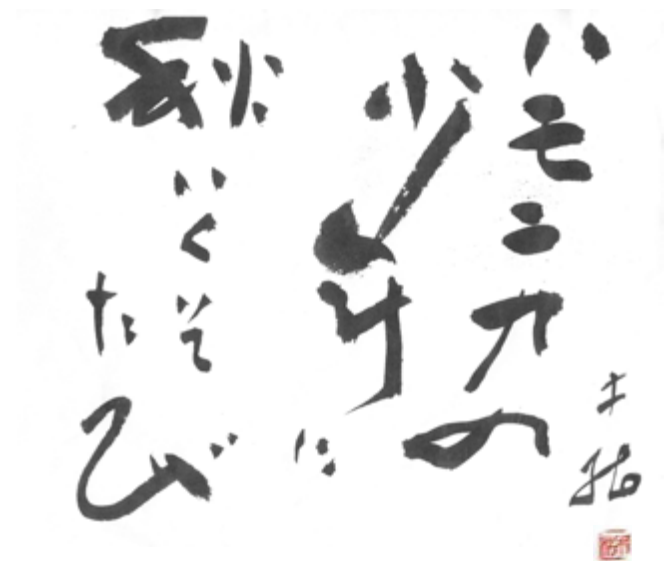
一老と兜太に呼ばれ初硯
 何となく正月が過ぎフランスパン
 龍にならんと駒形へ冬將軍
 雪のある頁が欲しく雪を待つ
 近道をして忘れもの春近づく



福島が目の前にある寒さかな

正月もあっけなく過ぎてしまった。それでも近年は松を過ぎても我が家の前を多くの人々が通る。山ノ手七福神詣での一環で神楽坂、善国寺毘沙門天から或いは抜弁天巖島神社からの賑わいである。勿論、熟年層高齢者の顔触れだが、日本人の信仰心の篤さであろう。さて、1月8日の新聞で俳優の二谷英明氏の逝去を知った。つくづく時代の流れを思う。抜け弁天を余丁町通りを入ると、すぐ右側にリング園というアパートがあった。二谷氏が売り出しの頃そこに住んでいたのを思い出した。道幅の狭かった昭和30年頃の余丁町風景である。将棋ソフトに米永永世棋聖が敗退。豪華客船がイタリア沖座礁のニュースが紙上に。原因はサービス過剰ミスのようなだ。阪神・淡路大震災から17年と言う。東日本大震災と重ねて身辺大事な年。

2012/1/17 大安



逃げる攻める寒卵転がって

西口に白い袋と残る雪

草餅や誰か故郷を思はざる

草餅や泣いて笑って薄みどり

雪のある頁が欲しく母を呼ぶ



東京初雪少年の目になりてこそ

暮から正月と忘年会・新年会と続いた。区行政から外郭団体・町会・業界と、身辺忙しかった。2月に入っても幾つか残っている。その間、諸会合からひっきりなしに呼び出しが掛かる。余程暇な御仁でなければ務まるまいと思うのだが、然に非ず結構まじめに出席している。宴会の方は同じ会場で大方同じ顔ぶれで座を濁している。昨日も会い今日も会う。それも年配者が多いのは、後継者が居ないからだ。何処も左様らしく、私の町会でも若手に移りつつあるが商売、勤めのあるうちは無理であろう。それも、現在問われている。少子高齢化の成れの果てである。役所仕事の無駄遣いであり、皺寄せを私たちに。早く止めて俳句に。

2012/2/28 大安

桜咲く人は無情の中にゐる

一縷の望み桜吹雪と思ひけり

唄を忘れてカナリアひとり春の風

毎日の一句遺書としつばくらめ

みんなより長生きしたく新茶汲む



堀内一郎句集

暖流・かまつか(5)



短詩型文学全書
八幡船社・刊

自昭和二十五年
至昭和五十五年

昭和五十六年五月二十日発行
短詩型文学全書

堀内一郎句集

著 者 堀内 一郎
編集兼発行人 津久井利一

雲重きゆえ首のべて鴨ゆくや

虫の音の一塊りが明けきらず

焚火中繩の苦悶のよりもどす

早春の踏めば音する地の中に

昇天の魂と触れきて雪真白

せめてもの倅せ冬日耳に染む

花片となる日を待てる地のしづけさ

すぎる子に一日の汗を触れさせぬ

母が初日の祈りの中に吾もゐる

湖見えて旅愁にはやる松の芯

光るとき露に命のただならぬ

さびしさが帰雁の前にたちはだかる

ほのかに遠く白息のみはめぐりあふ

陽に遠く住めり春寒つねにあり

和服にて風の中なる秋祭

祭の灯同じ暗さで家つなぐ

蝶二つ生まれもつともまぶしき日

オルゴール鳴る生々と彼岸河豚

うららかや税吏の鼻が三角で

薫風が刃をなまくらにしてしまふ

あらがひて晩夏の旅をころざす

どれも未完秋蟬の声壁なすとき

枯蓮の穴に薄日の蔭がある

空笑ひする嬰兒よ春はそこらで爆ぜ

揺れるつばきゆれざる椿夜の雨

妻や旅す蚊遣のなつかしきひと巻

少年期終る秋燕次からつぎ

老漁夫のすべる長靴梅雨兆す

土管の中で鳴く虫月がきらいな虫

機関区にコスモス咲けり愛さるる

妻と子の白息くらべるかに見ゆ

子の数だけ買ふ密柑かえらびぬし

獣性のくち薔薇色に青葡萄

青年に冬生き生きと鮎にぎられ

頬ずりは二児に等しく夜長の妻

悲曲は女に豆腐の鍋に雪ちらつき

金星へ風が匂へる立春以後

鈍重な歩をうららかと思はしむ

鶏頭親し海から帰つて来た漁夫に

海峡に秋来てとざす腐蝕の錠

秋の夜の感情の壁は二人で解く

一望黄に祈りに似たる千の藁塚

雪来るか墓守は墓掘りつづけ

日かげればすぐ南天に重さくる

くもる休日鴉に啼かれて歩き出す

植木屋の死や冬菊のとりまく朝

煙草短く如月の指愛すべし

風葬の旗向日葵の軸に焦げ

うつたふる蟬にうなづき一支流

茸誕生老婆が影をかぶせるとき

遠ければひかりほとりの雪暗し

自分の蝶を放ち子供等は眠りの底

森にひぐらし脳の疲れの執刀医

夜は紅い獣肉つつき永い晩夏

掌脂らの染みし杖あり春の雪

帰燕日々黒で固めし男の婚

水甕に満月迫り黙る村

森を目指し時雨るる石に逢ひにゆく

八方に美しき罨極月来る

歳晩の街にて染まらない卵

春着の中どこにも窓のない男

林の音を鞆に入れてゆく試験

春天や影濃くなれば人旅へ

いつも薄暮の春蘭は咲く遠きかな

燈台は青年の胸夏つばめ

紫陽花に発色つづき妻にも唄

羽拔鶏が跨いでいつた水の話

冬を越す構へ誰にも斧はあり

食卓へ顎あげて犬四囲落葉

氷結の眼へ来る星は瑞々し

祭溜るいつもうしろに運河の帯

水無月の雲青年を包みきれず

群衆の秋敗色のハンカチ持ち

ラジオ枯野に少年渴くまいとする

鳴雪忌夜は一盞の自由得て

涅槃図やひとりの鍋の味をみる

昏れ惜む郭公最後まで飴

梨下無帽かがんで空の涯を見る

地へ還るもの空蟬が落葉に乗り

山へ叫んで水引の影がながい

創ぐちにどの雪片も貼りつかず

白鷺も同じ抜き足田植に蹤く

日本のロケット不発の町に人参赤し

男の目無花果甘く煮つづけり

鷹の目にねむく大きな牡丹雪

旅いつも少し不安に栗咲く頃

木の葉髪憂国の顔ここにもなし

咳をして枯野の広さ知る男

顔がそのまま毀れてしまふ薄氷

家督継ぐまはりの寒き田に見られ

触りたきもの枯園の百日紅

色紙が折りたくなつて夜の雪

観音供養杉の花降る目立たずに

メーデーの潮騒に逢ふカレーライス

ゆつくりと青田見せゆく棺担がれ

心臓病棟コップに白き薔薇呼吸

夷講海とほければ鶏つぶす

かたくなな冬滝父と思ひけり

練炭親し改札いまでも日本の冬

泣き虫の母をうづめて雪降る村

木の芽田楽僧侶も藁の匂ひする

雁行くやレモン絞りの人差指

西行忌水の勾ひの道を経て

西行忌夢のつづきも海の色

舍利塔へ春昼の田を分けてゆく

父の日や鴨足草は崖に飽き

ゴキブリの飛翔はらりと秋景色

鶏頭の首しめる風これからも

敗荷の隙間風聞く結婚式

眠る山バスは尾根にて蚕になる

四五本で泣いて笑つて町の芒

値のないキャベツ土へ戻して妻も蹴る

日かげにも倅せ枇杷はずるい花

餅膨れる悔のかたちのさまざまに

誰にでも二重瞼の春の水

しろい老後へ置く鈴虫の手頃な壺

母のかたちに枯れて鶏頭芯をもつ

足裏から年ゆき青き葉を煮つめる

枯野の母と逢ふ煙草一本の時間

マスクしてこめかみ動く一部始終

路の臺に逢ふ少年の大きな耳

人のうしろで慄へてばかり豆の花

鯉の唇ひかりあふとき落花宙

休み窯ざらざらぬける夏の蝶

卵塔の寄りかかりてや今年竹

花火師は生涯黒子花火川

柿万灯朝から隙間だらけの村

死神がつき鶏頭をぬきはじむ

むささび飛ぶ一枚の航海図

赤松の鱗はがして風邪をひく

孤兒院に望楼すすき十重二十重

三人の癌の終りの鳥総松

親知らず疼きはじめる他郷の雪

サイレンの声を出す犬ただに冬

水鳥を見る物語つぎつぎに

棺のぞく目よ納め雛かこまれる

藤房の夜遊び風の鬼あそび

筍の膨らんでゆく痒さかな

げんげ田のそんな絞りのくすぐる過去

灼けし蟻ものはづみで憤る

真暗らな口あつまつて神輿もむ

桃の芯充血八月十五日

灯台晩夏白い煙草を啜へて去る

吊革にもろ手縫りの十二月

山々に向く死にざまの日向ぼこ

しだれ桜は打上花火だからだから

桃が咲けば母の魂いろづくよ

羽拔鶏家を選ばず人えらぶ

桃の生ぶ毛うつらうつらと伊達郡

白昼夢たうもろこしの髪を梳く

楽団野に太鼓を下ろす凶作地

石榴嚙み遊びごころは尼僧らも

あれは妻が誘ひし短日の喫茶店

ゆつくりと枯れ居り父に今年の火

雪しんしん石佛笑むは村のために

糞を食ひ父より先に枯れてゆく

梅一輪山河いちにち掌振る

扇状地に桃咲き赤いスト指令

気落とすはひとりでよろし柿の花

死に支度のひとつ句碑とて緑蔭に

夢の山はいつも絶景梅雨きのこ

猫老いてあぢさゐの毬つきにゆく

来し方は風音ばかり羽抜鶏

蟻の列とぎれしところ食虫花

霊安室に父寝かしつけ鈴虫真夜

父はこぶ全く知らぬ道があり

絵具筆カンバスそれから菊を入れし

星になつた父に手紙を書いてゐる

目のなかを川が流れる絵燈籠

螢に哭きいつもたてがみ持つ男

父の居し病室のぞき九月尽

父なき冬折鶴はみな翔つてしまふ

一本の縄滅びざる枯野の日

少年のくち紅ければ枯木折る

冬送る襟の狐か闇囲ひ

少女来て啓蟄の墓うらがへす

木の芽田楽ほとけの顔をして食べる

男老ゆ花びら翔たし貨車翔たし

横たへて血の濃きからだ五月尽

和讃しみじみ蟻の姿が見えて来る

向日葵の背に素手の村飢えてなし

滝を見にゆく掌の白さかな

手花火の手は燃えしかな影もなし

墓はありけりさんさんと雪降る父

死が必要なとき葉牡丹の濃むらさき

沈丁花一行書くや一行消ゆ

曖昧な三尺先の犬ふぐり

郭公に道が山から降りてくる

風の上を風は行くなり泥鰯汁

夏惜むあまたかぐろきタンカー見て

粥腹一刻法師蟬鳴きじやくる

松六日ふところに濤うち寄する

起ちあがる寒濤だけを書いておく

さくら咲き箱根八里の一里ゆく

霧の世を僧形の杉出入りす

裏山へ佛もつつじ遊びせむ

どくだみ親し真白き父の日なりけり

光りつつ遠のくものを蟻と見し

夏蝶の驚きやうを学びけり

十葉の白よりくらきものもなし

み佛はもとより薄着額の花

朝涼や華燭にも似て袈裟選び

蓮咲くや嘴だけをうごかせる

螢呼ぶ唇に火をつけ垂老年

冷めたかりし指現はれつ螢の夜

雲水の旅立ち濃し灸花

十六夜や凭れる柱ありてこそ

菊人形いちにち立てば人臭し

思い出すままに

雪の日に生れし吾れにさかのぼる

堀内一郎

この句文集の著者堀内一郎さん（わたしはこうよびかけてゐたので）は大正十五年三月二十日生れ。その日は春の雪が降っていたようだ。一郎さんは降る雪をみると生れた頃の懐かしい感情が蘇るという。一〇三頁の写真はそれから数ヶ月経った写真のようである。そういえば生母の裂けた写真を持ってこれ見やすくしてくれと頼まれたことを思い出した。

わたしが俳句をはじめ『水音』という句会に誘われたのはたしか十八のころ。文中にしばしば登場する武井石艸画伯が主宰者である。その句会に一郎さんはおられた。わたしはそれからいくつかの俳句結社をあるいたが、いつも一郎さんが傍にいてくれた。一郎さんの生前中はわたしと幾つ違いか意識したことはなかった。この文章を書

いて一回り以上歳が離れていたと知り驚いた。もつと年が離れていないと思ってた。十代のわたしにしては『水音』句会のメンバーは年寄ばかりに見えた。見えただけで実際は酒を飲んで気にくわければ喧嘩も辞さぬ方々であった。しかしその中でも一郎さんは三十台と年が近かったので親身に交際していただいた。

後年、結婚式の司会をして頂き、子供が生れれば二人の名付親になっていた。長女の時は早く結婚する名だといはれた。余計なことをする名だなあとその時は思ったが、今は二人とも結婚をし子宝にも恵まれている。一郎兄のお陰だと今も感謝している。

『水音』で覚えたのは俳句ばかりではない。酒や山歩きもここで覚えた。九八ページの那須の温泉の話を読んでびっくりした。わたしはただ行っただけで記憶していないのだが、一郎さんは隅々まで覚えておられその記憶力にはただただ驚いた。この記憶力が全編ちりばめられている。楽しみに読まれることだろう。

文中これまた何度か書かれているが、毎日新聞の俳句コラム欄を精読されていた。私の句も採りあげて欲しいものだとうと呟かれた。『あを』十周年記念品に会員ひとりひとりに限定一部で句集を刊行した。

天井の分だけ畳明易し

わたしはこの句が大好きで句集名を『畳』とさせていただいた。限定一部ではあるが一部追加し、筆者である坪内稔典先生にお送りした。ある日、一郎さんから自分の句が掲載されていると電話があった。早速図書館に出かけて新聞紙上で確かめうれしくなった。

「毎日新聞」二〇一二年八月十九日 “季語刻々” より

朝夕の水を掴みて母の夏 堀内 一郎

「水を掴みて」がいいなあ。水仕事をしている母の手が生き生きと見える。句集「畳」から引いたが、「母逝きて茄子のしぎ焼一度だに」もこの句集にある。母は茄子のしぎ焼きが得意だったのか。

そういえば、水仕事とか水仕という言葉あまり耳になくなった。水に触らないで料理や洗濯ができるようになったからか。

『二郎つれづれ』は二〇一二年二月で終わっているのですがこのことには触れていない。扉にハーマニカを演奏している一郎さんの写真がある。中野区上高田にある『カフェ 傳』という喫茶店で一日に二回の演奏会を催した時のものです。本当に和やかな楽しい会でありました。知っている童謡や小学唱歌が次々演奏され、中には一緒にくちずさむ方もおられました。後日、八田木枯さんがもう終ってしまったのか、と日にちの記憶違いを残念がっておられた。句会に出句された「ハーマニカの少年に秋いくそたび」を色紙に揮毫していただきお届した。ハーマニカの好きな少年にも秋が何回訪れたことであろう、という句意である。翻ってみれば、ハーマニカを演奏する一郎さんはいつも少年に戻っていたのだろう。見返しの数字譜は一郎さんの自筆です。戯れに一郎さんがらいただいたハーマニカでなぞるのが上手くない。

ゴールドデンウィーク故郷とはハーマニカ

陰日向と無く近くにくれた一郎さんが二〇一三年三月五日逝かれた。そのお葬式の喪主のご挨拶に「妹が最後の面倒をすべて見てくれた」という感謝のご挨拶を聞

いた。葬式の帰りなのにとでもうれしくなり暖かいものにつつまれて帰ってきたこともあたらしい。

わたしが好きで短冊に書いていただいた句に

満月に子を置き石鹼とりに帰る

がある。このことを聞いてからこの句が一層好きになった。

その敬子さんとこの『二郎つれづれ』のお手伝いが出来ることは望外な喜びである。わたしはどうも“死”というもののつきあい方が下手である。葬式すらいまだに慣れない。受入れたくないというものが体に潜んでいるのか、生と死の境目がはっきりしない。で、わたしが生きている間はみな生きていると思って暮している。生きているのだから父母の法事もほったらかしである。

一郎さんはよくバイクで尋ねてこられた。「オイ！トイレ貸してくれ」と今でもふとそんな気になるときがある。

二〇一四年師走

佐藤喜孝



平成二六年十二月一五日 発行

一郎つれづれ

私家版

著者 堀内 一郎

発行人 堀内 敬子

東京都新宿区河田町十一の七

印刷 竹僊房

東京都中野区中央二の五十の三

製本 (有)武蔵製本

東京都中野区上高田五の三四の八

著者略歴

大正 15 年 3 月 20 日	東京に生る
昭和 20 年	福岡県矢吹町にて 『濱』同人野木杏青の指導を受く
昭和 27 年	『かまつか』入会
昭和 29 年	『かまつか』同人
昭和 35 年	『暖流』入会
昭和 46 年	現代俳句協会会員
昭和 56 年	堀内一郎俳句集（八幡船社）出版
平成 3 年	三人句集『緑蔭』（東研株式会社）出版
平成 9 年	『暖流』終刊。『萱』創刊に参画
平成 13 年	『あを』入会
平成 16 年	『わすれぐさ』（随筆集）出版
平成 23 年	『暁』出版
平成 25 年	3 月 5 日 永眠

唯利令
老丸

下田夜曲

C 0 1 2 3 5 6 1 | 6 6 5 3 6 5 - |
0 1 2 1 6 5 1 | 6 5 3 2 1 2 - |

0 1 2 3 5 1 6 5 3 5 | 6 - 0 5 6 1 |

2 - 0 3 2 1 | 6 1 2 1 6 1 - |

0 1 2 1 6 5 3 5 6 | 5 - - - ||

サカズの唄

DMC

~~C 3 6 6 - | 7 1 3 3 - |~~

DM 酒は涙か溜息か

4 3 - - | 3 1 3 1 7 | 7 - 6 4 6 |

4 - 3 - | 3 6 4 6 | 7 3 1 - |

7 - - - | 7 - - | 0 2 2 2 |

3 4 3 2 3 | 4 6 4 3 3 | 3 - 1 3 |

3 3 4 3 | 1 - 1 7 6 | 6 - - 1 6 - - ||